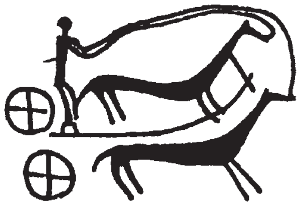
No.90 *March* 2012

ニュースレター



Hokkaido University
Institute for the Advancement of Higher Education
北海道大学 高等教育推進機構
Newsletter　No. 90

北海道大学教育総長賞を新設 (4 ページ)
新しい入試制度と変わる志願者・合格者の動向 (8 ページ)
英語による授業を担当する教員のための研修 (18 ページ)
中堅教員のための FD 研修会 (20 ページ)
CoSTEP 受講生による『リテラポプリ特別号』 (29 ページ)
（詳しい目次は裏表紙にあります）

巻頭言　FOREWORD

保健センターの現在（いま）

保健センター長　教授　武藏 学

保健管理センターが平成 22 年 4 月に現在地へ移転し，新たに保健センターとして再出発してから 2 年が過ぎました。平成 23 年度からは学生定期健康診断 (健診) を従来の学術交流会館から高等教育推進機構へ移して実施しています。大きく変化した保健センターの現状をご紹介させていただきます。

組織と診療

保健管理センターの在り方検討ワーキンググループおよび当センター運営委員会での検討，承認を経て，平成 22 年 4 月 1 日から従来の医学部診療所を廃止するとともに「保健管理センター」を改編し，新たに「保健センター」として再出発しました。

これにともない診療科を内科，精神衛生相談，歯科相談の 3 科に特化し，X 線撮影装置は設置せず，現在可能な検査は尿検査，血液検査，心電図のみです。歯科相談室は歯学部内に設置され，保健センターのホームページから予約できます。

人事面では，センター長・教授がセンター専属となり，内科はセンター長，医学研究科所属・保健センター兼務の助教 2 名，精神衛生相談は准教授 1 名，医学研究科所属・保健センター兼務の助教 1 名がいます。歯科相談の助教 1 名は大学病院所属・保健センター兼務です。臨床心理士の講師が 2 名，他にカウンセラー 4 名，内 1 名は函館キャンパスに配置され，学生約 3,000 名にカウンセラー 1 名という，ほぼアメリカ並のカウンセリング態勢です。

札幌キャンパスの衛生管理者を兼ねる薬剤師1名，臨床検査技師1名，看護師は内科2名，精神衛生相談1名です。函館キャンパスには別に看護師1名が配置されています。

建物1階の内科待合室は西側全面ガラス張りで開放感があり，事務室，内科，薬局，検査室，教員室などがあり，2階には精神衛生相談，カウンセリング室，センター長室，教員室などがあり，体調不良者のためのエレベーターもあります（写真1）。

診療は平日午後1時～3時半の受付時間帯で，内科と精神衛生相談を行っており，カウンセリング，栄養相談，女性相談なども予約制で行われています。8時半～17時の間の応急措置にも応じています（詳細はホームページを参照）。

総合入試の影響

今年度から総合入試が始まり，受診者・相談者数の変化に注目してきましたが，内科受診者数は平成22年度が3,694名，今年度は1月までで3,132名と，ほぼ例年並みです。一方，精神衛生相談の年度新来者数は平成22年度が417名と，法人移行した平成16年度以降増え続け，今年度も1月までで371名と，平成22年度を上回りそうです。

新入生を対象として入学時に実施している心理テストUPIでは，30点以上の高得点でフォローアップ面接の対象となる学生が211名おり，看護師が順次電話で体調を確認しています。また，希死念慮（「死にたい」気持ち）を持っている学生が10.4%認められ，例年よりやや高い結果でした。

さらに，クラス担任に協力していただいて実施した「学生のこころとからだの健康に関する調査」では約50名(2.2%)が強い困難感を持っていることが判明しています（平成23年8月31日現在）。

現時点では，総合入試になって特にメンタルヘルス上の問題が顕在化したとはいえませんが，今後の移行先決定による影響等に注目しています。

健康診断

平成23年度から春の定期健診会場を従来の学術交流会館から高等教育推進機構に移しました。新入生は受診率がほぼ100%，進学や就職を控えた卒業年次生は診断書が必要なためか約70%ですが，新入生と卒業年次を除く学生の受診率は約40%と低く，これらの学生の受診率向上が課題です。

大学によっては健診受診を期末試験受験等の資格や，保健体育の成績認定の条件としています。本学では健診の意義は健康の自己管理，周囲への配慮（結核等の感染症）にあると考え，ペナルティは科さず受診率の向上を図ってきましたが，現状がつづくなら考えを変える必要があるのかもしれません。

産業保健活動

職員の健診受診率は94%と向上していますが，再検査・精密検査の受診率は低く，せっかくの健診での指摘が放置されています。指摘事項があった時こそ早めに対応していただきたいと願っています。

特に，業務と関係した放射性同位元素等取扱者と有害物質等取扱者の健診では，異常値が認められた場合には作業環境に照らして，その異常が業務に関わるかどうかを判定しています。その点で職場巡視は重要で，平成16年の法人移行以来，毎月，産業医を兼ねる保健センター医師が職場巡視をし，安全衛生委員会へ報告して改善を求めてきました。

その積み重ねがあって研究教育環境は随分改善したと思われます。しかし，まだ棚の上の重量物，棚や重量物の未固定などの事例もありますので，平成22年の東日本大震災の被害を挙げるまでもなく，安全かつ効率よく研究・教育が行われるためには，益々の環境整備が重要と考えます。

全学教育の授業

全学教育「なぜ病気になるのか？―治療医学から予防医学へ」を2010年から継続しています。保健センター教員を中心とするオムニバス形式の講義で，1年生を中心に120～300名が受講し，毎回のミニレポートやまとめのレポートの採点は大変ですが，予防教育が何より重要と力が入っています。

身体領域ではAEDを含めた心肺蘇生法，喫煙と飲酒の問題，感染症対策，メタボリック症候群と入浴，アレルギー，スポーツ貧血，歯科疾患などで，精神神経科領域では青年期の精神医学，大学生のメンタルヘルス，ストレスと認知変容理論などです。さらに病院のかかり方，インフォームドコンセント，死生学なども加わります。卒業後には職場や地域の中核的存在として，心身の健康に留意した生活を送って欲しいと願いながら行っています。

研究活動

2000年の保健管理センター赴任時からの私の夢は，当センターの日常業務を対象とする研究の成果を優れた雑誌に発表し，大学保健管理の分野で貢献をしたいということでした。

やっと最近になって，インフルエンザ・パンデミック対策，血液検査でのサラセミア例の発見，心理テストUPIと自殺との関連などに関する研究で多少の貢献ができてきたかと思っています。

写真１　保健センター

大学院教育部を新設

高等教育推進機構に，本年４月より大学院教育部が新設され，初代部長（副機構長）に小林幸憲工学研究院教授が任命されました。

本教育部は，既設の全学教育部とともに教育企画機能を担い，本学の大学院理工系専門基礎科目および大学院共通授業科目の企画・立案等ならびに「博士課程リーディングプログラム」に採択された本学のプログラムの推進に関する業務を行います。

大学院の大幅な教育改革が始まりつつあるなか，本教育部の役割は重要で，活躍が期待されます。

（細川 敏幸）

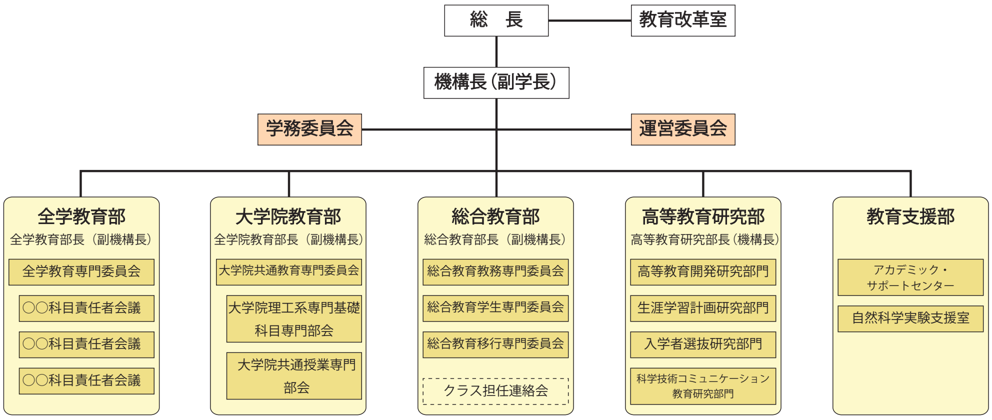


図１　高等教育推進機構の組織図

北海道大学教育総長賞を新設

本学の教員の教育意欲の向上を図り，教育の活性化とさらなる発展に資するために，新たに「北海道大学教育総長賞」が設けられました。毎年，全学教育科目において「学生による授業アンケート」の評価平均点が高く，授業内容･方法に工夫を凝らし，教育の向上に努め，教育の推進に優れた功績を上げた教員に贈られます。

今回は表１の７名が受賞され，３月６日に総長から報奨金 30 万円と賞状が手渡されました。

受賞されたみなさまは全学教育担当教員のなかでも極めて優秀なことが認められました。その教育手法を語る講演や，OCW への登録，授業参観の実施など，今後とも本学の教育の発展に貢献されることが期待されます。（細川 敏幸）

表１　教育総長賞受賞者一覧

橋本 雄一（文学研究科）
澁川 陽一（理学研究院）
川村 周三（農学研究院）
大沼 義彦（教育学研究院）
遊川 和郎（メディア・コミュニケーション研究院）
Jegondy Nicolas Pierre（メディア・コミュニケーション研究院）
山下 好孝（国際本部留学生センター）

写真１　教育総長賞・研究総長賞表彰式（2012 年３月６日）

大学教育学会第34回大会を開催

5月26，27日に本機構で大学教育学会第34回（2012年）大会が本学との共催で開催されます。

大学教育学会は，1979年に「一般教育学会」として発足した大学教育に関するパイオニア的学会です。1991年の大学設置基準の大綱化に合わせて1997年に「大学教育学会」と名称を変更しました。発足以来一貫して大学教育の大衆化に対応する「大学教育研究」の開拓を志向し，広範な大学教員が参加する「大学教員としての自己研究」（FD型研究）に主眼をおいて活動しています。

本大会は，世界的に進行している大学教育改革と，昨年発生した大災害と原発事故をふまえて，統一テーマを「転換期の大学教育」としました。

特別企画としてノーベル賞受賞者鈴木章先生の基調講演，専門家グループによるシンポジウムⅠ「学士課程教育の質の改善と教育情報」およびシンポジウムⅡ「転換期における科学リテラシー教育の課題」（並行開催），さらに鈴木敏之東京大学副理事をお迎えして緊急シンポジウム「大学への秋入学をめぐって」が開催されます。16題のラウンドテーブル，90題の自由研究発表も予定されています。

共催ですので，本学の学生や教職員のみなさまにも無料でご参加いただけます。全国から約400名の専門家が集まり議論しますので，今日の大学教育についての研究成果や日本における教育制度改革の実情，現代日本の大学教育の課題と，その解決策などをつぶさに知ることができます。これにより，本学のみなさまに大学教育改革に関する理解を深めていただき，本学の教育制度改革のさらなる進展にも寄与できればと願っています。プログラムの詳細は下記をご覧ください。http://www.daigakukyoiku-gakkai.org/society/page-1

参加ご希望の方は，下記にメールでお申し込みください。gakkai @ high.hokudai.ac.jp

（細川 敏幸，名誉教授 阿部 和厚）

表1　大会日程

第1日目5月26日(土)	
8:30～	受付
9:00～9:20	初めて参加する人のためのオリエンテーション
9:30～12:10	ラウンドテーブル
13:10～14:00	総会
14:10～14:20	開催校挨拶 北海道大学総長 佐伯 浩
14:20～15:20	基調講演 北海道大学名誉教授・ノーベル賞受賞者 鈴木 章
15:30～18:00	自由研究発表
第2日目5月27日(日)	
8:30～	受付
9:00～12:10	自由研究発表
13:10～15:10	シンポジウムⅠ「学士課程教育の質の改善と教育情報」山田 礼子（同志社大学），半田 智久（お茶の水女子大学），高橋 哲也（大阪府立大学），工藤 潤（大学基準協会） シンポジウムⅡ「転換期における科学リテラシー教育の課題」木村 真三（獨協医科大学），石村 源生（北海道大学），塚原 修一（国立教育政策研究所）
15:10～15:20	次期開催校挨拶
15:30～16:50	緊急シンポジウム「大学への秋入学をめぐって」鈴木 敏之（東京大学副理事）
16:50～17:00	閉会

プロフェッショナルディベロップメント
―教員・TA 研修の国際比較（北海道大学出版会）を刊行

筑波大学と北海道大学の共催により 2009 年７月につくば市と札幌市で開催された国際シンポジウム「高等教育におけるプロフェッショナル・ディベロップメント」のプログラム B「プロフェッショナル・ディベロップメントの諸相」（北海道大学，７月 30 ～ 31 日）の日本語版記録が北海道大学出版会から刊行されました。

本書の第１部「外国の大学におけるプロフェッショナル・ディベロップメント」では，米国・ワシントン大学，中国・清華大学，韓国・ソウル国立大学の重層的な教員研修・サポートシステムの全体像および，効果的な教員支援の手法としてワシントン大学のマイクロティーチングやソウル国立大学の e ラーニングサポートを紹介しています。

第２部「大学院生向け研修プログラム」では，カナダ・ダルハウジー大学および米国・カリフォルニア大学バークリー校の TA 研修から PFF (Preparing Future Faculty) プログラムへの発展を紹介し，あわせてアカデミックライティングについての討論も紹介されています。

第３部「学生・教員調査を活用した教員研修」では，教育支援ツールとして注目される米国・インディアナ大学の全米学生調査 NSSE（National Survey of Student Engagement），教員調査 FSSE，授業調査 CLASSE や，同志社大学の新入生調査 JFS と上級生調査 JCSS など学生・教員調査の成果を紹介しています。

第４部「日本の大学におけるプロフェッショナル・ディベロップメント」では，日本の大学における教育改善・教員支援の現状を，北海道大学と筑波大学の取組を中心に紹介しています。

本年３月 26 日に中教審大学分科会大学教育部会から「予測困難な時代において生涯学び続け，主体的に考える力を育成する大学へ」（審議のまとめ）が公表され，学生の主体的な学修時間を実質的に増加させ，学びの成果につなげること，その際に学修行動調査等によって測定することが提案されていますが，付属の「学士課程教育の質的転換の関連資料」では，北海道大学の全学教育 TA や，インディアナ大学の NSSE，同志社大学，北海道大学などの４大学連携による教学 IR の例が紹介されています。

http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2012/03/29/1319185_3.pdf

このように本学の最近の取組みが注目されていますので，教育改善，教育学習支援に関心を持つ多くの大学人に本書が広く読まれ活用されることを期待しています。　（名誉教授 小笠原 正明，安藤 厚）

プロフェッショナル・ディベロップメント
―教員・TA 研修の国際比較―
安藤　厚・細川敏幸・山岸みどり・小笠原正明編著
北海道大学出版会
ISBN978-4-8329-6761-8・A5 判・並製・250 頁・2012 年４月発売・定価 2,600 円＋税

カリフォルニア大学バークリー校の講師による「大学院生のための大学教員養成（PFF）講座」評価報告書を刊行

2010年3月，7月，2011年7~8月にカリフォルニア大学バークリー校（UCB）の二人の講師を招いて開催したワークショップ「大学院生のための大学教員養成（PFF）講座：ティーチングとライティングの基礎」（本誌83，84，88号参照）の評価報告書を刊行しました。

米国の多くの研究大学では最近10年ほど，Ph.D.取得者に対して大学以外の採用側からも，教育能力がもっと必要という要望が強まり，TA研修，Preparing Future Faculty講座などが組織的に拡充されています。

その代表的な事例であるUCBのPFF講座を本学に紹介するための３回のワークショップについて，学生，チューターからの評価をまとめた報告書です。

成果

出席率は95%超，授業外の学習時間は（1週間で）28.4（最大120，最小3）時間，クラスGPAは3.8前後と，きわめて高く，多くの受講生がたいへん力を入れて取り組んだことがわかります。

評価

ワークショップの全般的評価は，第1回は4.72（最低1～最高5）と過熱気味でしたが，第2，3回はともに4.43に落ち着きました。

授業の要素別の評価では，ティーチング4.70に対して，ライティング4.43，学習成果の自己評価も，教育の知識と技能4.41に対して，その他の知識技能はいずれも4.0前後と，ともにティーチングに関する評価が高くなっています（図１）。事前調査では毎回ライティングに期待する者のほうがやや多いですが，事後評価では逆転します。これは，学生はティーチングについて学ぶのが初めてのためと推測できます。

記述式の評価では，本講座に対する大学院生の熱い期待と高い評価がうかがえます。

本年3月26日に中教審大学教育部会から公表された「審議のまとめ」では，本学の全学教育TAの例が紹介されています。

これらの期待に応えて，本PFF講座は今年度も来年3月に実施する予定です。

（細川 敏幸，名誉教授 安藤 厚）

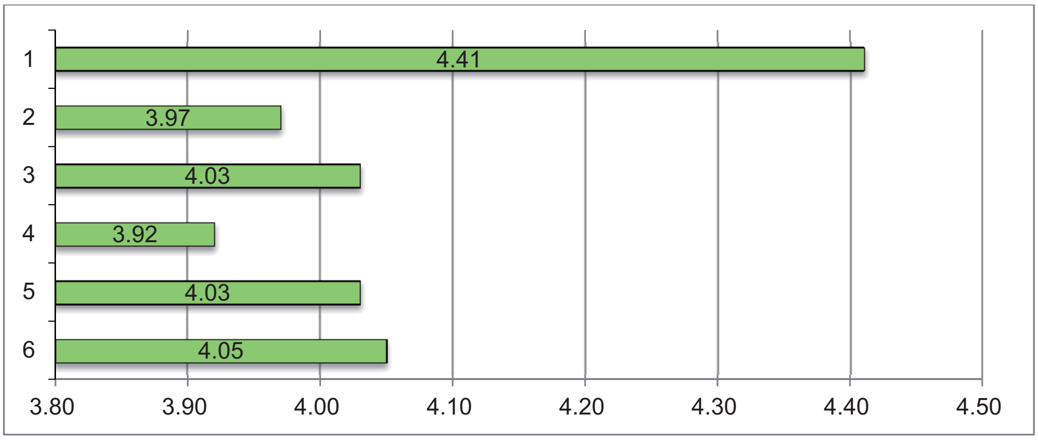


図１ PFF 講座における学習成果の自己評価 (2011)
1. 教育の知識と技能
2. TA の知識と技能
3. 学会発表申込・学術雑誌論文の作文
4. 英語による発表・討論・ピアレビュー
5. 学術専門職の仕事の説明
6. 国際的学術専門職の知識と技能

２年目に入った新しい入試制度と変わる志願者･合格者の動向

役員補佐・アドミッションセンター副センター長　小内 透

総合入試を導入した新制度による入試の２年目の結果が出ました。本年度は①後期の志願者の大幅増，②志願者・合格者の道外比率の上昇，③好調な水準を維持した総合入試が主な特徴といえます。

志願者の大幅増（1 万人超）

本年度の志願者は，前期が前年度比 26 人減の横ばい，後期が 408 人の大幅な増加で，前後期合計で 382 人増の 10,372 人となりました。志願者が 1 万人を超えたのは平成 21 年度以来 3 年ぶりです。後期の大幅な志願者増は，他の有力大学が後期の廃止・縮小を進めた影響が強いと思われます。前期で有力大学を志願した人たちにとって，本学が後期の受験機会を提供する重要な場になっています。

道外比率の上昇（入学者の 57%）

志願者の地域別内訳は，北海道が前期 178 人減，後期 90 人減の合計 268 人減, 道外が前期 151 人増，後期 494 人増の合計 645 人の増加でした。その結果，道外比率が前期 50.5%，後期 61.6%，前後期合わせて 55.5%となりました。志願者の道外比率が50%を超えるのは，２年連続です。前期では北陸・中部の 102 人増，後期では北陸・中部 192 人，関東 155 人，近畿 136 人の増加が目につきます。

合格者の道外比率は，志願者以上に高くなり，前期で 53.6%，後期で 71.8%，前後期合わせて 57.4%となっています。合格者の道外比率は 4 年連続 50%を超え，上昇を続けています。

総合入試は好調な水準を維持

総合入試の志願倍率は，総合入試文系が3.3倍，総合入試理系が2.8倍でした。文系は昨年度の4.6倍と比べると大幅な低下ですが３倍を超え，前期全体の倍率（2.9倍）を上回っています。理系は前年度比25人増で倍率は変わりませんでした。総合入試は，全体として前年度の好調な水準を維持しています。

３月には，はじめての学部・学科移行が終わり，本学の学士課程教育は新しい段階に入りました。総合教育部での共通教育とともに，学部・学科移行後の学部での専門教育の成果をもふまえて，入試制度と入試広報の検証を進めていく予定です。

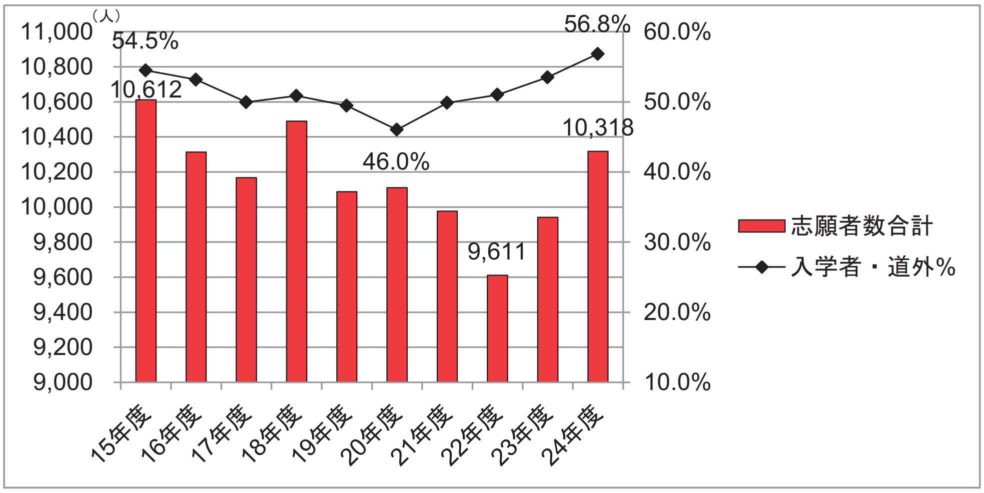


図１　一般入試における志願者数合計と入学者のうちの道外出身者の比率の推移
（平成 15 ～ 24 年度）（入試課提供）

「一年生調査2010年」北海道大学を中心とした比較分析

平成21年度採択戦略的大学連携支援プログラム「相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出―国公私立4大学IRネットワーク」事業では，調査分析結果を教育改善に役立てるため，2009年12月と2010年11～12月に連携4大学の初年次生に対して学生調査を行いました。学習状況，英語運用能力，大学生活への適応感に関する意識等を質問項目に挙げ，IR (Institutional Research) 機能を活用して連携大学間で相互評価を行っています。

この度，2010年の調査について「北海道大学を中心とした相互評価のための比較分析報告書」を発行しました。本学の特長としては，全学教育・初年次教育の充実，単位の実質化の推進による学習態度の改善，女子学生の充実感・満足感が高いことなどが挙げられ，2011年度入試から導入した総合入試の影響について今後注目すべき点も見えてきました。

全学教育・初年次教育の充実

本学では10年以上にわたり全学教育の充実を図ってきましたが，その取り組みが学生の満足感にも反映しています。4大学全体に比べて北大では，

①「実験，実習，フィールドワーク等を実施し，学生が体験的に学ぶ」「TA・SA（上級生や大学院生の授業補助者）から補助を受ける」「インターネットを使って授業課題を受けたり，提出したりした」ことが多い

②「図書館の設備」「コンピュータの施設や設備」「インターネットの使いやすさ」「実験室の設備や器具」について満足度が高い

③「異文化の人々に関する知識」「グローバルな問題の理解」など国際関係の知識が女子学生において増えている，などの特徴がみられます。

特に③については，アカデミック・サポートセンターの相談でも「将来国際関係，海外で活躍したい」「留学したい」と話す女子学生が目立っています。

単位の実質化による学習態度の改善

2009年と同様に，本学の学生は①図書館の資料やウェブ上の情報の利用が多い，②「授業を欠席した」「授業に遅刻した」ことが少ない，③「授業や実験に出る」「授業時間以外に勉強や宿題をする」「読書をする」時間が長いなど肯定的な回答が多い一方，④「取りたい授業を履修登録できなかった」という否定的な回答が増えています。

女子学生の充実感・満足感が高い

2009年調査でも顕著でしたが，男子学生に比べて女子学生の方が大学生活に適応し，学業でも，その他の活動でも充実しているようです。具体的には，女子学生の方が，①自習時間やアルバイトの時間が長い，②友人関係の満足感が高い，③国際関係に関する知識が増えた，④学習効果に対する自己評価に関して肯定的な回答が増えている，⑤学習支援や援助に対する満足度が高い，などの特徴があります。

総合入試の影響

総合入試入学者は移行先の選択の際，初年次の授業内容によって進路を再考する学生もいますので，「取りたい授業を履修登録できなかった」という意見の増加が懸念されます。2011年調査（11月実施）では，この意見が52.1% (2010) ⇒ 69.5% に急増しており，適切な対策が必要と思われます（平成24年度の対策は本号11～12ページを参照）。

一方，休み時間などに学生同士が勉強する姿をよく見かけます。またクラス担任制度やアカデミック・サポートセンターによる相談体制を整備し多くの学生が相談に訪れていますので，自習時間の増加や，学生と教職員との関係の改善が期待されます。

入試制度の大きな変更にともない，教育改善に係る客観的な検証を行うための基礎データとして本調査の重要性が高まっています。

本年7月には，連携4大学を中心に「大学IRコンソーシアム」を設立し，新たに参加大学を募集して調査を継続し，データの蓄積と分析により大学教育の効果測定，連携大学間での相互評価に取り組んでいく予定です。　（宮本 淳）

＊2009～2011年の4大学全体および北大中心の報告書は以下のウェブサイトを参照。
http://socyo.high.hokudai.ac.jp/freshmansurvey09.pdf, http://socyo.high.hokudai.ac.jp/freshmansurvey10.pdf, http://www.irnw.jp/activity.html（学生調査）

全学教育 GENERAL EDUCATION ＆ 総合教育 FIRST YEAR EDUCATION

移行ガイダンス，学部・学科等紹介（2月開催）

9月末に続き，2月にも学部・学科等移行ガイダンスと学部・学科等紹介が実施されました。

総合入試により入学した初年次学生の，本年度3月の学部・学科等への移行に向けて，すでに4月と9月に移行ガイダンスを行いましたが，移行の直前に再度ガイダンスを行い，あわせて各学部・学科等の説明会を開催しました。

移行ガイダンス

2月8日午前，文系総合入試学生は1クラス，理系総合入試学生は4クラスに分けて，1時間のガイダンスを行いました。今回は移行に関する説明のほか，志望調査・志望登録のためのweb入力方法等について，小内透役員補佐，川端潤アカデミック・サポートセンター長と山口の3名が分担して，スライドと配付資料を使いながら詳細に説明し，総合入試学生の約6割が参加しました。3回目であり，移行システムについての理解がかなり進み，参加しなかった学生が多かったのかもしれません。欠席した学生には教務課窓口で当日の資料を配付しました。

学部・学科等紹介

同日の午後には学部・学科等紹介が行われました。9月には全ての学部・学科等から参加説明をお願いしましたが，今回は開催の有無，開催方法等は各学部・学科等に一任し，開催しなかった学部・学科等もありました。そのため学生の参加者も少なくなったようで，アンケートによれば，9月の紹介の聴講者は延べ2,500名を超えていたのに対し，今回は1,500名前後でした。それでも相談者数は9月とそれほど変わらず，750名程度に上ったようです。来年以降も同様に開催する予定で，高等教育推進機構棟の一大イベントとして定着しそうです。

今回は2回目ということもあり，学生も戸惑うことなく参加していたようです。時間もスペースもたっぷりあったので，趣向を凝らした紹介が多くみられました。じっくり説明しているものもあれば（写真1），何やらみんなで楽しそうに進めているところもありました（写真2）。

参加学生を対象としたアンケートで意見を聞きました。大変有意義だったという意見のほか，開催していない学部があって残念だったとの意見もありました。教員からは「学生の真剣さが増した」等の意見がありました。

今後も，さまざまな意見をもとに改善を加えながら，このような試みを続けていく予定です。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

（山口 淳二 理学研究院教授・総合教育部長）

写真1　学部・学科等紹介

写真2　学部・学科等紹介

学務委員会報告

第３回，第４回学務委員会が開催され，以下の議題について話し合いました。

第３回学務委員会（平成23年12月26日）

議題

1. 全学教育科目規程の一部を改正する規程
2. 平成 24 年度全学教育科目の開講計画
3. 平成 24 年度全学教育科目Ｔ・Ａ
4. 平成 24 年度全学教育部・総合教育部行事予定
5. １年次における履修登録可能単位数の取り扱い
6. 移行に係る検討事項―学部・学科等の「振り分け定員」を算出した後の集計差異の取り扱い

報告事項

1. 平成 24 年度全学教育科目の履修調整
2. 平成 18 年度からの教育課程の検証及び平成 24 年度の実施に向けての検討・改正内容
3. 平成 23 年度英語Ⅱオンライン授業
4. １年次学生の異動
5. 平成 24 年度新入生オリエンテーション及び総合教育部ガイダンス

物理学の授業科目名を改正

平成24年度に向けて，(旧)「基礎物理学Ⅰ・Ⅱ」⇒(新)「物理学Ⅰ・Ⅱ」，(旧)「物理学Ⅰ・Ⅱ」⇒(新)「物理学Ⅰ・Ⅱ（上級）」と授業科目名を改正しました。

平成 24 年度開講計画

平成 24 年度全学教育科目の開講計画が了承されました。開講コマ数は計 1,998 コマ，うち非常勤講師担当 407 コマです（平成 24 年４月１日現在）。

平成 24 年度行事予定

平成 24 年度第１学期の予定は，４月６日午前：入学式，４月 10 日：授業開始，８月３日：授業終了となります。主な変更点として，６講時授業の実施により，例年よりも１週間ほど授業終了が早くなっています。また，成績評価に関する申立て期間を５日間から２日間に短縮しました。

第２学期の予定は，９月 25 日～ 10 月３日：学部・学科等移行ガイダンス，学部・学科等紹介，学部・学科等移行手続き（予備志望調査等），９月 27 日：授業開始，２月４日：授業終了，２月 28 日：成績確定，３月１日以降：学部・学科等移行手続き（第１回志望調査⇒振り分け）となります。

主な変更点としては，成績評価に関する申立て期間を４日間から２日間に短縮しました。これは，総合教育部における学部・学科移行手続きが３月１日から予定されており，２月 28 日までに全ての成績評価を確定する必要があり，学生から成績評価に関する申立てがあった場合の諸手続きに係る日数を確保するためです。

１年次における履修登録可能単位数

今年度から総合入試が導入されたことより，学生の履修傾向が変化し，全学教育科目の履修者が平成 22 年度と比較して，１年次で約 6,100 名，全体では約 6,300 名増加しました。これによる諸問題への対策として次の事項が了承されました。

①１年次２学期における自由設計科目の履修登録可能単位数を６単位⇒２単位に変更

②１年次２学期における履修登録の上限設定単位数の特例措置における基準値を１学期 GPA2.50 以上⇒ 2.60 以上に変更，及び履修登録可能単位数を４単位⇒２単位に変更。

③上記①にともなう再履修者への配慮として，１年次2学期に開講される再履修科目(再履修クラスが開講される必修科目に限る)を，4単位まで履修登録上限設定単位数の外数として登録可能とする。

学部・学科等の「振り分け定員」を算出した後の集計差異の取り扱い

総合入試に伴う学部振り分け基本方針において，進級可能な理系学生数，文系学生数を「学部・学科」定員を基礎に比例配分」としているところ，実際の振り分け定員を計算した際に生じる集計差異の取り扱いを定めました。

平成 24 年度全学教育科目の履修調整

総合入試の導入により，学生の履修傾向が変化し，23 年度，履修調整を要する科目で履修希望登録者が激増した結果，履修調整において多数の落選者が出たことから，平成 24 年度の履修調整では下記の対策を施すことになりました。

1) 2 学期の履修調整時に各履修調整区分において，1 年次学生の単位未修得者を優先して履修調整を行います。
2) 外国語演習において，履修者 3 名以下の場合の開講取消の措置を取り止めます。

平成 18 年度からの教育課程の検証と平成 24 年度の実施に向けての検討・改正内容

平成 18 年度からの教育課程の検証及び平成 24 年度の実施に向けての検討・改正内容について報告がありました。主な内容は，

1) 平成 23 年度入学者における GPA 取得状況
2) 平成 23 年度第 1 学期全学教育科目における科目別 GPA の平均値
3)「単位の実質化」「履修登録上限設定」の検証結果
4)「単位の実質化」「履修登録上限設定」における今後の検討事項
5) 平成 23 年度から実施した制度等に関する検証
6) 平成 24 年度以上の実施に向けた検討事項

などです。

1 年次学生の異動

1 年次学生の異動，12 月 1 日までの休学者数と退学者数について報告がありました。人数は，昨年までと大きな増減はありませんでした。

平成 23 年度英語 II オンライン授業

外国語教育センター英語CALL実施委員会がまとめた平成23年度英語IIオンライン授業の実施状況が報告されました（本誌89号7ページ参照）。

平成 24 年度新入生オリエンテーション及び総合教育部ガイダンス

新入生オリエンテーションと総合教育部ガイダンスは4月5日に開催します。午前中に1年生全員にクラス担任・副担任による「総合教育部新入生オリエンテーション」，午後に「総合教育部ガイダンス」として総合入試入学者に総合教育移行専門委員会による「学部・学科等移行ガイダンス」，学部別入試入学者に各学部担当者による「学部ガイダンス」を行います。

そのほか，4月7日に上級生の協力得た修学サポート「履修相談会MANAVI」，4月9日に「履修調整・登録に関するガイダンス」および「教育情報システム(ELMS)利用ガイダンス」など各種ガイダンスを予定しています。

第 4 回学務委員会（平成 24 年 2 月 29 日）

議題

1. 進級判定・進級要件単位充足判定
2. 第 0 次振り分け定員・第 1 次振り分け定員の決定
3. 『「秀」評価，GPA 制度，自由設計科目制度及び履修登録単位数の上限設定の実施について(Q&A)』
4. 「退職教員の非常勤講師の採用について」に係る対象科目の追加
5. 平成 24 年度全学教育科目に係るＴ・Ａの採用
6. 国立大学法人北海道大学高等教育推進機構学務委員会大学院共通教育専門委員会内規
7. 国立大学法人北海道大学高等教育推進機構学務委員会リーディングプログラム推進専門委員会内規

報告事項

1. 平成 24 年度授業参観の実施
2. 全学教育における単位の実質化アンケート結果の検証
3. 平成 23 年度全学教育専門委員会の検討事項（報告）
4. 平成 24 年度第 2 学期の外国語演習の履修調整
5. 平成 24 年度全学教育科目の開講計画変更
6. 平成 23 年度第 1 学期の成績評価結果等
7. 平成 23 年度第 2 学期の履修者数
8. 全学教育科目実行教育課程表等の一部変更
9. 平成 24 年度クラス担任幹事会及びクラス担任等連絡会
10. 志望調査・移行振り分け結果の公表方法

進級判定・進級要件単位充足判定

2 月 28 日に確定した成績をもとに，1 年次の学生の進級要件単位充足判定を行いました。

第 1 年次の学生に係る履修，修学等に関する規程により進級要件は，1) 本学に 1 年以上在学すること，2) 全学教育科目 32 単位以上修得することとなっています。総合入試入学者は，加えて第 2 年次に所属する学部・学科等が決定した者となります。

これらの進級要件のうち，全学教育科目 32 単位以上を修得した学生を進級要件単位充足者として判定し，機構の掲示板に名簿を発表しました。

第０次・第１次振り分け定員の決定

上記で確定した総合入試入学者の進級要件単位充足者数をもとに，移行に係る各学部の定員を決定しました。

進級可能な総合入試入学者数にもとづき，医学部医学科，歯学部，獣医学部，薬学部薬学科は「総合入試による入学者定員」と決まっていますので，理系については，これらの学部・学科等の定員の 41 人を減じた人数で第 0 次定員を決定しました。

「秀」評価，GPA 制度，自由設計科目制度及び履修登録単位数の上限設定の実施について (Q&A)

今年度版の冊子を更新し，平成 24 年度版を作成することが了承されました。

「退職教員の非常勤講師の採用について」に係る対象科目の追加

標記の対象科目に「統計学」を追加することになりました。

平成24年度全学教育科目Ｔ・Ａの採用

平成 24 年度全学教育科目に係るＴ・Ａの採用予定が了承されました。必要人数はのべ 1,213 人（平成 23 年度 1,151 人），経費総額は 48,480 千円（平成 23 年度 46,336 千円）となりました。

大学院共通教育専門委員会内規

学務委員会の下に大学院共通教育専門委員会が設置され，1) 大学院理工系専門基礎科目の開講に係る企画及び実施に関すること，2) 大学院共通授業科目の開講に係る企画及び実施に関すること，3) その他大学院理工系専門基礎科目及び大学院共通授業科目に関することを審議します。

リーディングプログラム推進専門委員会内規

学務委員会の下にリーディングプログラム推進専門委員会が設置され，1) 文部科学省が所管する博士課程教育リーディングプログラムにより採択された本学の学位プログラムの推進に係る企画及び立案に関すること，2) リーディングプログラムの進捗状況等の評価に関すること，3) その他リーディングプログラムの実施に関し必要事項を審議します。

平成 24 年度第 2 学期の外国語演習の履修調整

平成 24 年度第 2 学期の履修調整では，英語演習と初習外国語演習の抽選について，より優先度が高いと考えられる者から順に実施します。

平成 23 年度第 1 学期の成績評価結果等

平成 23 年度第 1 学期の成績評価結果において「片寄りがある」とされた科目への照会等について報告がありました。

（山口 淳二 理学研究院教授・副機構長）

2012（平成24）年度　全学教育部・総合教育部行事予定表

【日（曜日）】	【行事】
◆４月	
２（月）～４（水）	新入生定期健康診断（理系）
５（木）	新入生オリエンテーション及び総合教育部ガイダンス（学部・学科等移行ガイダンス，学部ガイダンス）
６（金）	入学式
９（月）	履修調整・登録に関するガイダンス及び教育情報システム（ELMS）利用に関するガイダンス 新入生定期健康診断（文系）
10（火）	第１学期授業開始日
10（火）～ 16（月）	抽選科目の申込期間（Web入力）
18（水）	抽選科目の結果発表日及び追加申込日
19（木）～ 25（水）	平成18 ～ 24年度入学者履修届Web入力
19（木），20（金）	平成17年度以前入学者履修届受付
◆５月	
21（月）	６講時授業実施開始
◆６月	
７（木）	開学記念行事日（休講）
７（木）～ 10（日）	大学祭[7（木），８（金）は休講]
13（水）～ 15（金）	履修登録した科目の取消し受付（Web）
16（土）	TOEFL-ITP試験（英語II）
28（木）	６講時授業実施終了
◆７月	
24（火）	火曜日の授業終了日
25（水）	水曜日の授業終了日
31（火）	初習外国語統一試験日（通常授業は休講）
◆８月	
１（水）	月曜日の授業を行う日及び月曜日の授業終了日
２（木）	木曜日の授業終了日
３（金）	金曜日の授業終了日（第１学期授業終了日）
５（日）～６（月）	オープンキャンパス
６（月）～ 9月26日（水）	夏季休業日
７（火）	成績報告締切（非常勤[帳票]）
13（月）正午	成績報告締切（常勤[Web入力]）
20（月）	平成18 ～ 24年度入学者の全学教育科目成績Web上公開
20（月）～ 21（火）	全学教育科目成績確認及び成績評価に関する申立て期間
20（月）～ 9月26日（水）	自由設計科目登録変更期間
◆９月	
上旬～中旬	学科等分属手続：当該学部（２年次以上）
25（火）～ 26（水）	学部・学科等移行ガイダンス，学部・学科等紹介
27（木）	第２学期授業開始日
27（木）～ 10月3日（水）	学部・学科等移行手続き（予備志望調査）
27（木）～ 10月3日（水）	抽選科目の申込期間（Web入力）
◆10月	
５（金）	抽選科目の結果発表日及び追加申込日
９（火）～ 15（月）	平成18 ～ 24年度入学者履修届Web入力
９（火），10（水）	平成17年度以前入学者履修届受付
◆11月	
18（日）	AO入試・帰国子女入試（予定）
◆12月	
５（水）～７（金）	履修登録した科目の取消し受付（Web）
25（火）	月曜日の授業を行う日
26（水）	金曜日の授業を行う日
27（木）～ 1月4日（金）	冬季休業日
◆１月	
７（月）	授業再開
18（金）	センター試験準備（休講）
19（土）～ 20（日）	大学入試センター試験
24（木）	木曜日の授業終了日
29（火）	火曜日の授業終了日
30（水）	水曜日の授業終了日
31（木）	初習外国語統一試験日（通常授業は休講）
◆２月	
１（金）	金曜日の授業終了日
４（月）	月曜日の授業終了日（第２学期授業終了日）
５（火）～６（水）	学部・学科等移行ガイダンス
７（木）	成績報告締切（常勤[Web入力],非常勤[帳票]）
14（木）	平成18 ～ 24年度入学者の全学教育科目成績Web上公開
14（木）～ 15（金）	全学教育科目成績確認及び成績評価に関する申立て期間
14（木）～ 20（水）	自由設計科目登録変更期間
15（金）	私費外国人留学生入試第２次選考（予定）
25（月）～ 26（火）	北海道大学第２次入学試験（前期日程）
28（木）	全学教育科目成績確定（予定）
◆３月	
１（金）	第１年次進級判定（予定）
１（金）～ 21（木）	学部・学科等移行手続き（予定） （第１回志望調査～各学部振り分け）
12（火）	北海道大学第２次入学試験（後期日程）

平成23/22年度(第1学期)全学教育科目履修者数対比表

区分	授業科目	23年度1学期 クラス数	23年度1学期 履修者数	23年度1学期 1クラスの履修者数	22年度1学期 クラス数	22年度1学期 履修者数	22年度1学期 1クラスの履修者数	23/22年度比較 履修者の増減	23/22年度比較 前年比%
	一般教育演習（ﾌﾚｯｼｭﾏﾝｾﾐﾅｰ）	97	2,199	22.67	84	1,625	19.35	574	135.3%
	(集中・論文指導除く)小計	19	385	20.26	17	330	19.41	55	116.7%
	(集中:フィールド体験)小計	16	478	29.88	11	259	23.55	219	184.6%
	(論文指導)小計	62	1,336	21.55	56	1,036	18.50	300	129.0%
総合科目	環境と人間	18	1,477	82.06	16	1,033	64.56	444	143.0%
	健康と社会	9	1,954	217.11	10	1,875	187.50	79	104.2%
	人間と文化	6	345	57.50	5	429	85.80	▲ 84	80.4%
	人間と文化（集中）	1	20	20.00	1	14	14.00	6	142.9%
	特別講義	2	269	134.50	2	120	60.00	149	224.2%
	学問の世界	3	295	98.33	—	—	—		
	総合科目　小計	39	4,360	111.79	34	3,471	102.09	889	125.6%
主題別科目	思索と言語	8	1,287	160.88	10	1,229	122.90	58	104.7%
	思索と言語(論文指導)	3	44	14.67	3	64	21.33	▲ 20	68.8%
	歴史の視座	10	939	93.90	7	875	125.00	64	107.3%
	歴史の視座(論文指導)	4	80	20.00	5	91	18.20	▲ 11	87.9%
	芸術と文学	9	762	84.67	12	795	66.25	▲ 33	95.8%
	芸術と文学(集中)	2	139	69.50	2	136	68.00	3	102.2%
	芸術と文学(論文指導)	7	178	25.43	6	142	23.67	36	125.4%
	社会の認識	17	2,572	151.29	22	2,642	120.09	▲ 70	97.4%
	社会の認識(論文指導)	9	241	26.78	8	137	17.13	104	175.9%
	科学・技術の世界	18	2,546	141.44	20	2,147	107.35	399	118.6%
	科学・技術の世界(論文指導)	4	113	28.25	3	61	20.33	52	185.2%
	主題別科目　小計	91	8,901	97.81	98	8,319	84.89	582	107.0%
	(集中・論文指導除く)小計	62	8,106	130.74	71	7,688	108.28	418	105.4%
	(集中)小計	2	139	69.50	2	136	68.00	3	102.2%
	(論文指導)小計	27	656	24.30	25	495	19.80	161	132.5%
共通科目	体育学A(実技・1単位)	53	1,623	30.62	53	1,960	36.98	▲ 337	82.8%
	体育学B(講義・2単位)	1	92	92.00	1	86	86.00	6	107.0%
	情報学	14	2,703	193.07	19	2,615	137.63	88	103.4%
	統計学	11	893	81.18	11	847	77.00	46	105.4%
	インターンシップ	2	100	50.00	2	125	62.50	▲ 25	80.0%
	共通科目　小計	81	5,411	66.80	86	5,633	65.50	▲ 222	96.1%
	外国語を除く教養科目　合計	308	20,871	67.76	302	19,048	63.07	1,823	109.6%
	うち論文指導(主題別・一般教育演習)小計	89	1,992	22.38	81	1,531	18.90	461	130.1%
外国語科目	英語	139	5,459	39.27	140	5,321	38.01	138	102.6%
	ドイツ語	27	1,119	41.44	29	925	31.90	194	121.0%
	フランス語	15	292	19.47	14	467	33.36	▲ 175	62.5%
	ロシア語	5	77	15.40	5	87	17.40	▲ 10	88.5%
	スペイン語	6	264	44.00	6	242	40.33	22	109.1%
	中国語	24	867	36.13	23	819	35.61	48	105.9%
	韓国語	5	187	37.40	5	191	38.20	▲ 4	97.9%
	外国語科目　小計	221	8,265	37.40	222	8,052	36.27	213	102.6%
外国語演習	英語演習	83	1,744	21.01	91	1,593	17.51	151	109.5%
	英語演習（集中）	1	21	21.00	1	6	6.00	15	350.0%
	ドイツ語演習	14	269	19.21	9	193	21.44	76	139.4%
	フランス語演習	13	240	18.46	15	217	14.47	23	110.6%
	ロシア語演習	6	75	12.50	6	63	10.50	12	119.0%
	スペイン語演習	4	74	18.50	6	80	13.33	▲ 6	92.5%
	中国語演習	14	229	16.36	16	228	14.25	1	100.4%
	韓国語演習	6	105	17.50	6	84	14.00	21	125.0%
	外国語特別演習	13	199	15.31	11	157	14.27	42	126.8%
	外国語演習　小計	154	2,956	19.19	161	2,621	16.28	335	112.8%
	外国語　合計	375	11,221	29.92	383	10,673	27.87	548	105.1%
基礎科目	人文・社会科学の基礎	11	1,413	128.45	10	1,403	140.30	10	100.7%
	文系基礎科目　小計	11	1,413	128.45	10	1,403	140.30	10	100.7%
	線形代数学	33	1,869	56.64	30	1,856	61.87	13	100.7%
	微分積分学	33	1,909	57.85	31	1,782	57.48	127	107.1%
	数学概論	4	188	47.00	4	171	42.75	17	109.9%
	数学　小計	70	3,966	56.66	65	3,809	58.60	157	104.1%
	基礎物理学・物理学	31	1,866	60.19	33	1,842	55.82	24	101.3%
	化学	31	1,939	62.55	31	1,889	60.94	50	102.6%
	生物学	21	1,551	73.86	19	1,390	73.16	161	111.6%
	地球惑星科学	7	733	104.71	7	570	81.43	163	128.6%
	理科　小計	90	6,089	67.66	90	5,691	63.23	398	107.0%
	基礎自然科学実験	1	12	12.00	1	15	15.00	▲ 3	80.0%
	自然科学実験	17	1,006	59.18	21	912	43.43	94	110.3%
	実験　小計	18	1,018	56.56	22	927	42.14	91	109.8%
	基礎科目　合計	189	12,486	66.06	187	11,830	63.26	656	105.5%
	日本語・日本事情	4	25	6.25	4	36	9.00	▲ 11	69.4%
全学教育科目　1学期合計		876	44,603	50.92	876	41,587	47.47	3,016	107.3%

※22年度1学期の「人文・社会科学の基礎」は，「人文科学の基礎」と「社会科学の基礎」の合計で算出している。
※22年度1学期の「化学」は，「基礎化学」と「化学」の合計で算出している。
※22年度1学期の「生物学」は，「基礎生物学」と「生物学」の合計で算出している。
※22年度1学期の「地球惑星科学」は，「基礎地学」の数値で算出している。
※22年度1学期の「自然科学実験」は，「自然科学実験」と「基礎実験（旧カリ）」の合計で算出している。

平成23/22年度（第２学期）全学教育科目履修者数対比表

区分	授業科目	23年度2学期 クラス数	23年度2学期 履修者数	23年度2学期 1クラスの履修者数	22年度2学期 クラス数	22年度2学期 履修者数	22年度2学期 1クラスの履修者数	23/22年度比較 履修者の増減	23/22年度比較 前年比%
	一般教育演習（ﾌﾚｯｼｭﾏﾝｾﾐﾅｰ）	51	1,155	22.65	44	929	21.11	226	124.3%
	（集中・論文指導除く）小計	16	342	21.38	18	370	20.56	▲ 28	92.4%
	（集中：フィールド体験）小計	5	154	30.80	4	135	33.75	19	114.1%
	（論文指導）小計	30	659	21.97	22	424	19.27	235	155.4%
総合科目	環境と人間	17	1,429	84.06	14	748	53.43	681	191.0%
	健康と社会	6	1,404	234.00	6	1,222	203.67	182	114.9%
	人間と文化	3	191	63.67	4	203	50.75	▲ 12	94.1%
	特別講義	1	61	61.00	1	317	317.00	▲ 256	19.2%
	学問の世界	3	79	26.33	－	－	－	83	－
	総合科目　小計	30	3,164	105.47	25	2,490	99.60	674	127.1%
主題別科目	思索と言語	10	1,004	100.40	10	1,225	122.50	▲ 221	82.0%
	思索と言語（論文指導）	2	51	25.50	1	34	34.00	17	150.0%
	歴史の視座	10	815	81.50	8	694	86.75	121	117.4%
	歴史の視座（論文指導）	2	27	13.50	3	34	11.33	▲ 7	79.4%
	芸術と文学	13	1,825	140.38	8	1,311	163.88	514	139.2%
	芸術と文学（論文指導）	2	31	15.50	4	92	23.00	▲ 61	33.7%
	社会の認識	16	1,712	107.00	12	1,893	157.75	▲ 181	90.4%
	社会の認識（論文指導）	7	150	21.43	9	142	15.78	8	105.6%
	科学・技術の世界	12	1,349	112.42	10	1,312	131.20	37	102.8%
	科学・技術の世界（論文指導）	0	0	0.00	1	12	12.00	▲ 12	－
	主題別科目　小計	74	6,964	94.11	66	6,749	102.26	215	103.2%
	（集中・論文指導除く）小計	61	6,705	109.92	48	6,435	134.06	270	104.2%
	（論文指導）小計	13	259	19.92	18	314	17.44	▲ 55	82.5%
外国語科目	英語	152	4,914	32.33	153	4,958	32.41	▲ 44	99.1%
	ドイツ語	27	1,089	40.33	28	919	32.82	170	118.5%
	フランス語	15	278	18.53	13	464	35.69	▲ 186	59.9%
	ロシア語	5	72	14.40	5	86	17.20	▲ 14	83.7%
	スペイン語	6	269	44.83	6	246	41.00	23	109.3%
	中国語	23	837	36.39	21	809	38.52	28	103.5%
	韓国語	5	184	36.80	5	195	39.00	▲ 11	94.4%
	外国語科目　小計	233	7,643	32.80	231	7,677	33.23	▲ 34	99.6%
外国語演習	英語演習	52	1,327	25.52	56	1,100	19.64	227	120.6%
	ドイツ語演習	15	376	25.07	12	236	19.67	140	159.3%
	フランス語演習	9	182	20.22	8	167	20.88	15	109.0%
	ロシア語演習	6	89	14.83	6	44	7.33	45	202.3%
	スペイン語演習	5	111	22.20	5	86	17.20	25	129.1%
	中国語演習	16	361	22.56	18	281	15.61	80	128.5%
	韓国語演習	6	121	20.17	5	109	21.80	12	111.0%
	外国語特別演習	15	257	17.13	15	220	14.67	37	116.8%
	外国語演習　小計	124	2,824	22.77	125	2,243	17.94	581	125.9%
	外国語　合計	357	10,467	29.32	356	9,920	27.87	547	105.5%
共通科目	体育学A（実技・1単位）	49	1,464	29.88	48	1,569	32.69	▲ 105	93.3%
	体育学B（講義・2単位）	1	245	245.00	1	83	83.00	162	295.2%
	情報学	10	612	61.20	14	829	59.21	▲ 217	73.8%
	統計学	9	803	89.22	9	578	64.22	225	138.9%
	共通科目　小計	69	3,124	45.28	72	3,059	42.49	65	102.1%
	外国語を除く教養科目　合計	224	14,407	64.32	207	13,227	63.90	1,180	108.9%
	うち論文指導（主題別・一般教育演習）小計	43	918	21.35	40	738	18.45	180	124.4%
基礎科目	人文・社会科学の基礎	4	898	224.50	－	－	－	904	－
	文系基礎科目　小計	4	898	224.50	－	－	－	904	－
	線形代数学	27	1,375	50.93	26	1,408	54.15	▲ 33	97.7%
	微分積分学	27	1,511	55.96	28	1,559	55.68	▲ 48	96.9%
	数学概論	1	31	31.00	1	25	25.00	6	124.0%
	数学　小計	55	2,917	53.04	55	2,992	54.40	▲ 75	97.5%
	基礎物理学・物理学	26	1,721	66.19	28	1,724	61.57	▲ 3	99.8%
	化学	27	1,857	68.78	30	1,772	59.07	85	104.8%
	生物学	20	1,416	70.80	18	1,333	74.06	83	106.2%
	地球惑星科学	5	1,076	215.20	4	462	115.50	614	232.9%
	理科　小計	78	6,070	77.82	80	5,291	66.14	779	114.7%
	心理学実験	4	92	23.00	4	105	26.25	▲ 13	87.6%
	自然科学実験（2単位）	17	1,020	60.00	20	1,030	57.11	▲ 10	99.0%
	実験　小計	21	1,112	52.95	24	1,135	47.29	▲ 23	98.0%
	基礎科目　合計	158	10,997	69.60	159	9,418	59.23	1,579	116.8%
	日本語・日本事情	1	14	14.00	1	17	17.00	▲ 3	82.4%

全学教育科目　2学期合計	740	35,885	48.49	723	32,582	45.07	3,303	110.1%
全学教育科目　1学期合計	876	44,603	50.92	876	41,587	47.47	3,016	107.3%
全学教育科目　1・2学期合計	1,616	80,488	49.81	1,599	74,169	46.38	6,319	108.5%

（H24.2.29 現在）

※22年度2学期の「化学」は，「基礎化学」と「化学」の合計で算出している。
※22年度2学期の「生物学」は，「基礎生物学」と「生物学」の合計で算出している。
※22年度2学期の「地球惑星科学」は，「基礎地学」の数値で算出している。
※22年度2学期の「自然科学実験」は，「自然科学実験」と「基礎実験（旧カリ）」の合計で算出している。

平成23年度　全学教育に

1．講義担当コマ数（専任（外国人教師を除く）担当分を開講責任コマ数（配当教員１人につき，責任部局は５～６コマ，準責任部局は６コマ）に計上）

授業科目 ＼ 部　局			文			教		法		経		理		医		歯		薬		工		農		獣		
			専	外	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専
教養科目	主題別科目	思索と言語	15																							
		〃（論文指導）	5																							
		歴史の視座	16					1		1																
		〃（論文指導）	4			1		1																		
		芸術と文学	14		7																					
		〃（論文指導）	8																							
		社会の認識	10			1		7		9																
		〃（論文指導）	7			1		2		3																
		科学・技術の世界	4									19								6						
		〃（論文指導）	2									1								1						
	共通	体育学Ｂ				2																				
		統計学								10	6									3						
	主題別への振替（外国語演習）		17			1		3		4		2														
基礎科目	人文・社会科学の基礎		5			2		5		3																
	線形代数・微分積分・数学概論											92	33													
	物理学・基礎物理学											35		1						9		4				
	化学											15						4		11		3				
	生物学											22						1		2		5		1		
	地球惑星科学											11														
日本語・日本事情																										
計			107	0	7	8	0	19	0	30	6	197	33	1	0	0	0	5	0	32	0	12	0	1	0	

2．外国語授業及び実験等担当コマ数（専任（外国人教師を除く）担当分を開講責任コマ数（配当教員１人につき，責任部局は８～１０コマ，準責任部局は１０コマ）に計上）

授業科目 ＼ 部　局			文			教		法		経		理		医		歯		薬		工		農		獣		
			専	外	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専
教養科目	共通	体育学Ａ				83	17																			
		情報学Ⅰ・Ⅱ																		13	50					
		インターンシップ																								
	外国語	英語																								
		ドイツ語																								
		フランス語																								
		ロシア語																								
		スペイン語																								
		中国語																								
		韓国語																								
	外国語演習	英語演習																								
		ドイツ語演習		4																						
		フランス語演習																								
		ロシア語演習																								
		スペイン語演習																								
		中国語演習																								
		韓国語演習																								
		外国語特別演習																								
基礎科目	心理学実験		8																							
	基礎自然科学実験											6														
	自然科学実験（物理学）											62	12							12		4				
	自然科学実験（化学）											22	16					4								
	自然科学実験（生物学）											42	10													
	自然科学実験（地球惑星科学）											18														
計			8	4	0	83	17	0	0	0	0	150	38	0	0	0	0	4	0	25	50	4	0	0	0	
開講コマ数（講義換算(×5/8)）			5			51.88		0		0		93.75		0		0		2.4		15.625		2.4		0		0

（準）薬学部，農学部は講義換算（×6/10）　　注）「

3．責任部局の開講責任コマ数（配当教員１人あたりの負担コマ数（講義換算）が，責任部局では５コマ以上，準責任部局では６コマ以上必要）

部局	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣
配当教員数（H23.4.1予定）	24	12	4	6	66			（準）　1	6	（準）　2	
開講コマ数（講義換算(×5/8)）	112	62.88	22	30	360.25			6.0	30.0	12.0	
配当教員１人当たり負担コマ数	4.67	5.24	5.50	5.00	5.46			6.00	5.00	6.00	

4．全学支援開講コマ数（上記１及び２表で３表に算入しないコマ数）

部局	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣
開講コマ数						1		3	27	4	1

平成23年度　全学教育におけ

５．全学協力（総合科目及び一般教育演習(ﾌﾚｯｼｭﾏﾝｾﾐﾅｰ)）担当コマ数（責任部局の開講責任コマ数には計上しない。）

授業科目　＼　部　局		文			教		法		経		理		医		歯		薬		工		農		獣		水	
		専	外	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非
教養科目 総合科目	環境と人間										2								5		3		3		5	
	健康と社会				3								4		4		1								1	
	人間と文化	1					1		1																1	
	特別講義																									
	学問の世界										2						1		2							
一般教育演習(ﾌﾚｯｼｭﾏﾝｾﾐﾅｰ)		1		1							8	1	1						2		10		1		7	
〃　（論文指導）		4		1	2		3		2		4		9		5		4		23		1		2		1	
一般教育演習への振替(外国語演習)				1	1		1		0		3		7		1				5		1				1	
外国語演習（全学協力分）																										
計		6	0	3	6	0	5	0	3	0	19	1	21	0	10	0	6	0	37	0	15	0	6	0	16	0

履修者３名以下で開講中止となった外国語演習で，文学部の非常勤のコマの１コマ，経済学部の専任の

６．全部局の担当状況

部局	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣	水
専任教員数(22.5.1助教以上専＋外)	109	39	61	42	194	215	91	55	388	129	46	8
開講コマ数合計（専＋外）	128	97	24	29	349	22	10	15	94	31	7	1
教員一人あたりの開講コマ数（専＋外）	1.17	2.49	0.39	0.69	1.80	0.10	0.11	0.27	0.24	0.24	0.15	0.2
開講コマ数合計（専＋外＋非）	135	114	24	39	438	22	10	15	144	31	7	1
非常勤担当コマ数	15	17	0	8	91	0	0	0	50	0	0	0
非常勤依存率（非／全体）	11.11%	14.91%	0.00%	20.51%	20.78%	0.00%	0.00%	0.00%	34.72%	0.00%	0.00%	0.00

全学教育科目は，旧教養教官団を継承した7つの責任部局と，医学部保健学科の新設を機に設けられた2つの準責任部局を中心に，広く全学に支援を得て実施されている。
表1，表2は旧教養部から引き継いだ定員（配当教員）に基づき，責任・準責任部局が開講責任を負う科目のコマ数である。
責任部局については配当教員１名につき，講義（表1）5～6コマ，実験・実技・外国語科目（表2）8～10コマの開講責任を，準責任部局については配当教員１名につき，講義（表1）6コマ，実験・実技・外国
表3は責任部局の配当教員数と講義換算した開講コマ数を示すことにより，開講負担状況を示したものである。
表4は表1・2で示されるコマ数の内，開講責任のない部局が提供しているコマを示す。これにより全学支援の状況を示す。
表5は全学の協力により実施される総合科目・一般教育演習(ﾌﾚｯｼｭﾏﾝｾﾐﾅｰ)の担当コマ数である。総合科目は各部局1コマ以上，「一般教育演習(ﾌﾚｯｼｭﾏﾝｾﾐﾅｰ)」及び「外国語演習」は合わせて，助教以
表6は全部局の担当状況をまとめた表である。（ここでは，部局経費負担による非常勤講師のコマ数は「開講コマ数合計（専＋外）」欄には含めず，「非常勤担当コマ数」欄に含めている。）

（参考）　年度別非常勤コマ数（全学教育経費分）（平成6-23年度）　※部局経費負担分を除く

年度	非常勤	一般教育演習	合計	増減
6	690		690	
7	848		848	158
8	752		752	△ 96
9	651		651	△ 101
10	656	4	660	9
11	659	5	664	4
12	656	9	665	1
13	675	10	685	20
14	679	7	686	1
15	692	15	707	21
16	694	16	710	3
17	655	14	669	△ 41
18	571	7	578	△ 91
19	488	7	495	△ 83
20	397	6	403	△ 92
21	347	6	353	△ 50
22	341	8	349	△ 4
23	343	5	348	△ 1

（部局経費負担分）

	合計	
6.5	501.5	文4，理1.5，その他（戦略本部）1
40	443.0	文4，理17，薬1，外18
51	404.0	文3，経2，理20（創成2含む），薬1，外25（北京ｵﾌｨｽ所長就任に伴
52	401.0	文4，経2，理23（創成2含む），薬1，外22（北京ｵﾌｨｽ所長就任に伴
49	397.0	文5，経2，理19，外23（北京ｵﾌｨｽ所長就任に伴う総長協議分4ｺﾏを含

高等教育 HIGHER EDUCATION

4研究部門合同研究報告会
西森敏之特任教授の退職記念講演

今年の４研究部門合同研究報告会は３月28日午後３時～６時，情報教育館４階多目的教室 (2) において，表１のプログラムで行われました。各研究部の日頃の事業や研究が報告され，その活動内容を互いに紹介しました。

あわせて，高等教育開発研究部門が1995年に高等教育開発研究部として発足以来，専任教授として尽力されてきた西森敏之特任教授が定年退職されることを記念した講演も行いました。西森教授はご専門の位相幾何学を利用して，小学生に数学の楽しみを理解してもらう授業を紹介されました。最後に，花束とチェス盤を贈呈し，今後も数学教育の分野で活躍されることを祈念して講演を締めくくりました。　　（細川 敏幸）

表１　プログラム

１．科学技術コミュニケーション教育研究部門	古田ゆかり特任准教授
「実践を通した教育活動―CoSTEP 受講生が制作した北大広報誌『リテラポプリ』特別号 震災と北大をテーマとして」	
２．生涯学習計画研究部門	木村純教授
「大学 SD 研修の現状と大学職員セミナー」	
３．入学者選抜研究部門	山岸みどり教授
「北大の学生による授業アンケート―2006年度～2011年度の結果から―」	
４．高等教育開発研究部門	山田邦雅特任准教授
「教学 IR ネットワークによる学生調査結果／第１回教育改善マネジメントワークショップ報告」	
５．西森敏之特任教授 退職記念講演	
「東京お台場リス–ピアでの小学生向け数学授業」	

写真１　西森特任教授へ花束贈呈

英語による授業を担当する教員のための研修

平成23年12月1日から5日間にわたり，工学部棟において，以下のプログラムで総合化学院の教職員向けの「英語による授業を担当する教員のための研修」を実施しました。プログラムは各回90分で，基礎的な知識から実際の授業の練習まで発展的に学習できるよう構成しました。

ヨーロッパの同様な研修では，大学の教室での言語によるコミュニケーションには①語彙②文法③発音④スタイル⑤社会的側面が必要とされています。本研修では②文法を除く項目を網羅しています。

1回目には本学で作られた研修用テキストを配布し，受講者は教育の基本と，教室内における英語による対話の基本を学びました。

2回目は発音修正の専門家を招き，日本人なら誰でも気になる英語の発音について，注意するポイントをうかがいました。個別の診断が効果的でした。

3回目はテキストに沿って，教室で使われる英単語，英会話，英語による数学の表現方法を学びました。

4，5回目はマイクロティーチングをもとにした学習方法を採用し，各参加者が10分程度の英語によるミニ講義を行い，それを録画再生し，相互のフィードバックを通して英語での授業方法を学びました。

研修用テキスト「英語による授業サポートマニュアル」はA4判75ページで，以下の内容で構成されています。

1．はじめに
2．授業の設計とシラバス
3．教室での英語表現1：とっさのひとこと
4．教室での英語表現1：対話を円滑にするために
5．発音を修正する
6．数学の英語表現
7．有用な資料

本学でも留学生の数が増加し，全学で1,400名を超えています。そのため留学生が集中している大学院では英語による講義の必要性がでてきており，いくつかの大学院ではすでに実施されています。

本研修は，来年度から英語による授業を担当する総合化学院の教員が適切な教育ができるよう，英語に重点を置いた教育研修でした。すべての内容は，教育の基本や教室内の英語に関するものです。本研修と，そのために特別に作られたテキストは上記教育項目のうち②以外を網羅しており，初めて英語で授業をする先生方にはきわめて有用です。

来年度以降も，各部局の要望に応じて，同様の研修を実施する予定です。ご希望の部局は高等教育開発研究部門までご連絡ください。　（細川 敏幸）

写真1　英語FDテキスト

写真2　奥村真知氏の指導で発音修正に取組む受講者

表１　英語による研修プログラム

1）12月１日(木)15時, アカディミックラウンジ３	
英語による授業入門(90分)<日本語>	細川 敏幸(高等教育開発研究部長)
2）２日(金)14時, C－214教室	
発音の修正(90分)<日本語＋英語>	奥村 真知 氏(株式会社 プロンテスト 代表取締役)
3）６日(火)15時, アカディミックラウンジ３	
授業で用いる英語表現(90分)　<英語＋日本語>	細川 敏幸(高等教育開発研究部長), 山岸 みどり(高等教育推進機構)
4）７日(火)15時, アカディミックラウンジ３	
マイクロティーチング･ワークショップ(I)　<英語>	
導入(シラバスと自己紹介)(90分)	山岸 みどり(高等教育推進機構)
5）13日(火)15時, アカディミックラウンジ３	
マイクロティーチング･ワークショップ(II)　<英語>	
教えにくい/わかりにくい概念(90分)	山岸 みどり(高等教育推進機構)

FD研修の内容をまとめた映像資料

全学FD研修の講義部分をコンパクトにまとめた動画が完成しました。

この映像資料は，①FDの目的と教育倫理，②カリキュラムとシラバス，③学習目標，④学習方略，⑤成績評価を説明して，およそ１時間で，教育する際の基本知識を学ぶことができます。

本学では，一泊二日の本格的なFDを1998年から毎年１回実施してきました。２日間で教育の基本とシラバスの書き方，およびグループ学習の手法を学べます。この方法はきわめて効果的で，「北大方式」と呼ばれ国内の多くの大学のFDのモデルになり，日本の大学教育の改善に大きな役割を果たしました。2007年度からは毎年２回開催し，70余名の新任教員が参加していますが，毎年100名を超える新任教員全員がその恩恵に浴することはできませんので，映像化が企画されました。

本映像資料はDVDとして配布するほか，ホームページ上にアップロードし，教員の教育力向上のために使われる予定です。（細川 敏幸）

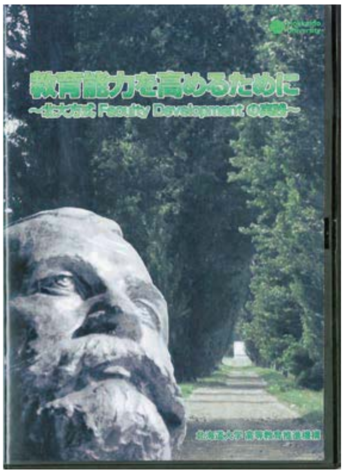


写真１　DVDパッケージ

写真２　再生画面

中堅教員のためのFD研修会
～第１回 北海道大学教育改善マネジメント・ワークショップ～

12月９～10日に高等教育推進機構の大・中会議室において，着任５年以上の中堅教員向けのFDワークショップを開催しました。中堅教員を対象としたFDワークショップはまだほとんど取組がなく，全国的にも新しい試みです。参加者は学内20名，学外２名でした。

教員の職務は大きく分けて「教育」と「研究」のほか，もう一つ重要なのはこれらを効率よく実行・改善するための「管理」能力です。本ワークショップは，特に教育改善に関するマネジメント能力を養うことを目的とし，行動目標は以下のとおりです。

大学の教育力向上上に貢献するために，

1. 大学の倫理綱領，PDCAサイクルをふまえた，
2. 学生を中心とした，
3. 同僚と協働した，
4. 大学が求める方策を的確にとらえた，
5. 大学・学部・学科のカリキュラムの目的，カリキュラム構造に沿った，

教育改善マネジメントができる。

ワークショップでは上層部からの指令をうけ，ワーキンググループとしてプロジェクト計画を作成するシミュレーションを行います。全体テーマは「北海道大学の国際化」とし，参加者は４グループに分かれ，以下のサブテーマに取り組みました。

A：留学生を増やす
B：学部留学生の日本語教育
C：日本人学生が留学するようにし向ける
D：大学院生教育（専門の研究以外）

ワークショップ１では，ミーティングに見立てて，課題の背景・ニーズの解析を行います。現状はどうか，何が問題で原因は何か，学生・社会は何を求めているかを記録し，可視化することが目的です。表２は，グループAの成果の一部です。

表１　第１回北海道大学教育改善マネジメント・ワークショップ プログラム

2011年12月9日（金）	
9:00	受付 北海道大学・高等教育推進機構・中会議室
9:15	挨拶 高等教育推進機構長 山口佳三 副学長・理事
9:25	研修のオリエンテーション 「このワークショップの趣旨 」（10分） イントロダクション ミニ講義１「目標管理の概念」（15分）（写真１） ミニ講義２「PDCAサイクル」（15分）
10:05	アイスブレーキング
10:25	＜休憩＞
10:40	ミニ講義３「ニーズ･背景･課題の解析と意志決定」（15分） ＋＜ WS1の課題の説明＞（5分）
11:00	グループ討論室（大会議室）への移動と役割分担
11:05	WS1「 課題のニーズ・背景の把握」（写真２）
12:00	WS1の発表
12:30	＜昼食 ＞
13:30	ミニ講義４「目標管理」（15分） ＋＜ WS2の課題の説明＞（5分）
13:50	グループ討論室への移動と役割分担
13:55	WS2「 目標管理：課題解決への組織的目標設定」
14:50	WS2の発表
15:20	＜休憩＞
15:40	ミニ講義５「戦略１：チームによる目標達成への行動計画役割分担」（15分）＋＜ WS3の課題の説明＞（5分）
16:00	グループ討論室への移動と役割分担
16:05	WS3「戦略１：チームによる目標達成への行動計画・役割分担」
17:00	WS3の発表
17:40	業務連絡 記念写真撮影（大会議室） １日目 ＜解散＞（宿泊なし）
2011年12月10日（土）	
9:00	集合
9:10	ミニ講義６「戦略２：担当教員の役割目標と行動計画・役割期待」（10分）＋＜ WS4の課題の説明＞（5分）
9:25	グループ討論室への移動と役割分担
9:30	WS4「 戦略２：担当教員の役割目標と行動計画･役割期待」（個人作業）
10:20	「個人作業ファイル」を「目標管理総合シート」にコピー・ペイストする作業
10:30	＜休憩＞
10:45	WS4「戦略１・２の統合：個人業務，大学・学部・学科業務の統合作業」（グループ作業）
11:25	WS4の発表
12:05	＜昼食 ＞
13:00	ミニ講義７「成果確認と評価」
13:20	総合討論，まとめ，ふりかえり
14:20	修了証授与式（写真４）
14:30	＜解散＞

表２　グループＡの成果の一部（WS1）

WS1（問題点と対策）	
課題の背景	ニーズ
国によって偏っている。韓国、中国が多い。 多様な国から来てほしい。 提携校がまだ少ない。 韓国、中国などだまっていても増える国がある。	提携校を増やす。授業料免除もできる。 潜在的な留学希望者がいそうな重点地域を設定する。 他の大学と競合しない地域へのPRを増やす。 海外オフィスを増やす。 OBのネットワーク化、留学生同窓会、
留学生の奨学金がない。奨学金制度が充実していない。	奨学金制度のデータベース作成。 寄付金を集める。 札幌市は活性化する。地元企業に拠出してもらう。
北大のレベルが低い。欧米の方が魅力的。	北大に来たい人を増やす。北大の良いところをアピールする活動が必要。 自然、気候、…

ワークショップ２では，組織目標を，成果が測定可能な内容・表現でまとめて可視化します。その際に考慮すべきことは，1. 組織の使命，2. 理念・教育目標の達成，3. 学生中心（学生の期待に応える），4. 多面的な視点，5. 実現性・重要性・戦略性，6. リーダーシップによるコントロール，7. 必要な価値，成果の評価，8. チャレンジ性，などです。

表３は，グループＡの成果の一部です。

表３　グループＡの成果物の一部（WS2）

WS2（目標設定）			
目的	目標カテゴリ	目標項目	達成基準
・優秀な留学生を増やす。 ・多様な留学生を増やす。 ・留学生の受け入れ体制を充実させる。	留学生ネットワーク	提携校を増やす	交流実績の把握。 国外有力大学の意向調査。
		重点地域形成	国内外の有力大学の動向調査する。
		留学生OB・OGのネットワーク形	追跡調査する。
	受け入れ側の制度	留学生対応の統一。	窓口一本化。
		全学での秋入学制の検討	未実施学部・学院での検討
		奨学金制度の充実	各種制度のデータベースを構築し、多言語で提供する。 寄付金の増加、
	広報	留学生へ北大の魅力を伝える	多言語の情報媒体の充実。

ワークショップ３では，目標項目ごとに，何を，どのように（実施方法），いつまでに（期限），担当は誰か（実施担当者）などの行動計画を決めます。

表４は，グループＡの成果の一部です。

表４　グループＡの成果物の一部（WS3）

WS3（実施事項）		
実施方法・期限	実施項目	実施担当者
交流実績のデータ 大学関係者にヒアリング。	交流実績のデータ収集（双方の格上げ意向の有無を含む） 有力大学へのデータ収集	朝倉
他大学の留学生データ	他大学の公式データと留学生獲得戦略調査	飯田
留学希望者にヒアリング。 未開拓国：教員の交流実績調査。	高校生もしくは学部生へ、ネット調査によるデータ収集 教員に調査	山本
OB・OG名簿作成 在籍留学生へのアンケート 在籍留学生の組織化 母国へのPR	指導教員に調査 留学動機、留学前の情報収集、現在の満足度など、面接調査①	鈴木

ワークショップ４では，役割分担者がそれぞれ行動計画を作成します。この行動計画は，優先事項や他との連携に注意して全体スケジュールに合わせる必要があるため，グループのメンバーは一人ずつ自分のスケジュールを２分間で発表し（写真３），全体の調整を行います。表５は，グループＡの１メンバーの成果の一部です。

以上のグループ作業をとおして，組織の目標にベクトルを向けつつ，個人の活動計画にまで落とし込んでゆくことを学びます。また，他との共同や，個人レベルで組織に多くの貢献ができることへの気づきを促すことも実感できるはずです。

最後に行ったアンケートには「組織の一員である認識が深まった」「目標達成のための階層的な進め方の学習になった」など，組織のマネジメントについて得たものがあったという意見がありました。

一方，実際に行い，また総合討論で参加者全員に意見を伺ってみて，いろいろ修正点も見つかりました。Excel 操作の簡略化，目標の具体化，懇親会の必要性などを検討したいと思います。

（山田 邦雅）

写真１　阿部名誉教授によるミニ講義

写真２　グループ討論

表５　グループＡの１メンバーによる成果物の一部（WS4）

WS4（個人シート）					
月日	個人作業項目	個人達成基準	個人実施方法	他との連携、協調内容	個人学習内容（情報・知識・技能）
12/31	部局間で提携している大学のリストアップ（研究室間で共同研究している大学のリストアップを含む） 部局で当大学から留学している先の大学のリストアップ	リストのデーターベースに必要な内容の原案 リストのデーターベースに必要な形式の原案	部局留学生担当事務、国際本部とのミーティング	部局留学担当事務、国際本部と連携	処理しやすいデータベースとは？ 多様な国、地域にわたっているか？ 多くの部局、研究室、教員に協力してもらいやすい依頼の仕方は？ 部局、教員からのヒアリングに関しての有効な情報収集法は？
			部局留学生担当事務、国際本部とのミーティング		
2/28	形式決定 リストのベータベース作成	ベーターベース形式決定 部局留学生担当事務、国際本部からの情報統合し依頼 部局、研究、教員のリスト決定			
3/15	各部局、研究室にリスト入力依頼	依頼文書決定	部局留学生担当事務、国際本部とのミーティング		
5/31	入力されたリスト回収				

写真３　グループの全メンバーの２分間発表

写真４　修了証授与式

全学教育 TA 研修会

―173 名が修了―

2012年度全学教育TA研修会が，4月4日に，ときならぬ吹雪模様のなか，本機構大講堂を主会場として開催されました。

全学教育を担当するTAには，当該授業科目の担当教員によるオリエンテーションのほかに，事前に当該業務に関する適切なオリエンテーションが義務づけられています。本機構では，1998年度から全学教育TA研修会を実施し，今回で15回目となります。

今年度の全学教育におけるTA採用人数はのべ1,213名（前年度比19%増）で，のべ時間も38,258時間（5.5%増）となっています。

TA制度は広い意味の大学院教育の一環として，教育を学ぶための実地訓練（教育現場の体験）を行う制度ともみなされています。また，大学院生は教員とともに学部教育に参加することにより，自分の専門について理解を深め，教育の現場で教えるとはどういうことかを理解することもできます。

研修の目的は以下のように要約されます。

1) 大学教育の基礎を理解する
2) 全学教育の趣旨を理解する：目的，意義，全体での位置づけ
3) 専門教育に還元できない基礎的な教育技術，

　心構え，教育理論について理解する
4) 担当する科目の内容と教授法を理解する
5) TA 相互の交流をはかる

午後の分科会は、今年は 14 分科会になり，午後の分科会までの修了者は173(平成 23 年は 208)名，修了率（修了者 / 対象 TA）は 40.7％（平成 23 年は 51.5％）でした。新年度の種々の行事と競合したようで，日程調整が今後の課題です。

今回配布されたテキスト「北海道大学ティーチング・アシスタントマニュアル改訂第 3 版」(2011)は，総合教育に関する記述を加えて多くの部分を刷新し，今年のプログラムには「試験監督における TA の役割」「授業参観へのお誘い」を加えました。

分科会の報告

A, B 一般教育演習

分科会 A（鈴木誠：高等教育推進機構）と B（栗原秀幸・関秀司：水産科学研究院）の合同分科会は，参加者 13 名で行われました。「少人数授業での TA の役割―ケーススタディから何を学ぶか―」というテーマで，授業の中で行われるグループ学習を自ら体験して，想定されるさまざまな事例に対しての TA の振舞いを学習して，発表と質疑応答を行いました。全体を通して,「教員とのコミュニケーション」と「学生をよく見ること」の重要性を認識しました。

（関 秀司，鈴木 誠）

C 講義

分科会 C は，大講堂に集合しマニュアルを参考資料にして，細川のミニレクチャーにより TA 制度の歴史と意味，シラバスの読み方，講義の基礎手法を学びました。次に 39 名の参加者を 2 クラスに分け，N283 は池田，山田が，N282 は細川，三上が担当し，グループ学習によるケーススタディを行いました。まず，アイスブレーキングによりグループ内の自己紹介と役割分担を確認し，「雪の使い方」でグループの動きを会得しました。次に「学期末近くになって B さんが TA の佐藤君に 2 回目のレポートを出したはずだと申し出た。佐藤君の手元の記録では未提出になっている。佐藤君はどうすべきか」など，4 つの起こりうるケースにどう対応すべきかを議論しました。各グループとも熱心に課題に取り組み，最後の発表でも課題を一般化して対策を考えるなどしたわかりやすい解決策が提示され，有意義な研修となりました。

（細川 敏幸）

表 1　平成 24 年度北海道大学全学教育 TA 研修プログラム

＜午前の部＞ 司会 細川 敏幸 (高等教育推進機構)
9：30 挨拶 山口 佳三 高等教育推進機構長
9：35 講演「北海道大学の全学教育について」山口 淳二（高等教育推進機構・総合教育部長）
10：05 講演「TA の心得」瀬名波 栄潤（文学研究科）
10：35 休憩
10：45「TA 業務に関する事務処理の内容」山本 透（教務課）
11：00 パネル討論「TA の可能性～現状と理想」
　司会：山田 邦雅（高等教育推進機構）
　教員パネラー：鈴木 誠（高等教育推進機構）
　院生パネラー：新原 律子（文学研究科），
　　稲葉 一輝（工学研究科）
12：00 昼休み
12：00 ～ 12：30 コーヒーブレーク（TA 経験者との談話）

＜午後の部＞
以下の 14 の分科会 (A) ～ (N) に分かれて実施

(A) 一般教育演習	(B) 一般教育演習／フィールド
(C) 講義	(D) 論文指導
(E) 情報学	(F) 英語 II オンライン授業
(G) 英語 II 以外の英語の授業	(H) 初習外国語（中国語以外）
(I) 中国語	(J) 文系基礎科目
(K) 心理学実験	(L) 理系基礎科目
(M) 自然科学実験	(N) アカデミック・サポート

D 論文指導

本分科会には，文理各分野から 11 名の TA が参加しました。研修においては，各学問における「主張」の性質が異なることを確認し，それぞれの「主張」のあり方に相応しい問題設定，資料収集を考察しました。参加者はこれらの作業を通じて，自身が指導する学生がどのような「主張」「調査」を行うのか，イメージを新たにしたようです。また,「主張」を持てない学生や,「資料調査」ができない学生への指導のあり方のディスカッションも有効でした。

（村松 正隆）

E 情報学

本分科会では，情報学 I の目標，内容，指導体制，教材，成績評価の概略と，具体的な評価項目の説明を行いました。また，情報基盤センターの教育情報システムを使った授業課題の設定方法の研修を行いました。

今年度は，総合入試 2 年目の授業となり，昨年に特徴的なトラブル事例を述べるとともに，その対応策，および公平な成績評価のあり方と，具体的な評価体系の説明を行いました。多数のグループが統一カリキュラムで授業することによる優位性と，公平性を担保することの重要性などの担当者の心構えにも触れました。

情報学では，初回は全体説明の後に即，コンピュータ教室に移動し，授業が開始します。1 つの講時で最大 10 グループが並列して授業が進行しますので，スムーズに学生を誘導する流れについて説明しました。

授業では 50 名超の TA 等がグループ指導者として，各コマ 20 人程度の学生を担当します。TA の指導力育成にもつながる本科目での TA の経験がより良いものになるように，TA 全員が主体的に授業に関わる必要があります。

全体研修会後には，各講時で授業全体を統括する，タイプ S の TA との打ち合わせも行いました。

このようにして，全学 2600 人が履修する情報学を円滑に進めるための有意義な研修会となりました。なお，本 TA 研修会は大学院共通科目「情報学教育特論」の講義を兼ねています。

（布施 泉）

F 英語 II オンライン授業

最初に情報教育館 CALL 教室で，業務の内容や TA としての心得を説明しました。次に，経験者 TA と初心者 TA をペアにして，PC へのログイン，Webtube（教材サーバ）へのログイン，操作練習を行いました。その後，教務課で出勤簿と CALL 教室の鍵のありかを確認し，E309CALL 教室の位置を確認しました。さらに，S 研究棟 CALL 教材準備室 A に行き，PHS，名札，出勤簿の確認をしました。

休憩後，メディア 210CALL 教室で TA を 3 つのグループに分けて，「騒いでいる学生にどう対処するか」などいくつかの課題をグループで考えてもらい，発表，ディスカッション，質疑応答を行いました。多くの積極的な発言があり，大変有意義な研修会になりました。

（園田 勝英）

G 英語 II 以外の英語授業

本分科会には 16 名が参加しました。主に『TA マニュアル』の該当箇所の内容に沿って，授業の種類や TA の業務例の紹介，注意事項や視聴覚機器の確認等を行いました。英語の場合，TA の所属研究科や国籍もさまざまで，必ずしも北大の全学授業や施設に詳しい学生ばかりではないので，教室やスタッフ・ルーム，教員研究室についてもマニュアル内の図でよく確認し，授業のスタートに支障のないよう配慮しました。

（原田 真見）

H 初習外国語（中国語以外）

分科会には 5 名が参加しました。2 名は仏語の CALL 必修授業担当であるので，9 月に開催される講習会への出席が不可欠である旨を伝えました。他の独・西・韓国語演習担当には，どのようなサポートを教員に期待されているか確認し，アドバイスを与えました。特に独語演習は，教員が 4 月に赴任したばかりなので，全学のコピー機の使い方や学習者のレベル等など，全学教育担当の教員が知っておいた方がよいことの連絡も依頼しました。

次に外国語 TA が一般に気をつけておかなければならない注意事項を説明しました。基本的には服装に気をつけること，教室内では常に学生に見られていることを意識し, 不適切なふるまいをしないこと。必修 CALL の TA に対しては，教員のいない自学自

習の監督における要領等です。担当教員と問題が生じた場合の連絡先についても説明しました。その後，質疑応答を行い，全学教育の印刷所システム等について答えました。（西村 龍一）

I 中国語

本分科会では，まず中国語TA担当教員の渡邉より，事務的な手続きと中国語の全体の授業構成について説明し，その後，同じく中国語TA担当教員の飯田より，学習者にとって中国語TAが初めて接する中国人である点を踏まえての中国語TAの心構えや，詳しい業務内容について説明をおこないました。アンケート，名札の回収の後に，個々の教員と面談をし，個別の打ち合わせの時間をとり，13時45分ごろ分科会を終えました。（渡邉 浩平）

J 文系基礎科目

この分科会に参加予定のTAは7名いましたが，実際の参加者はそのうち2名でした。また他科目のTAが1名来たので，計3名となりました。全て「人文科学入門」の担当者でした。自己紹介の後で『TAマニュアル』の当該箇所を読んで，文系基礎科目におけるTAの役割を説明しました。その際，科目担当教員との打ち合わせをこまめに行なうこと，TAには教員と学生との仲介役としての働きが期待されることなどを強調しました。

最後には，「授業の妨げとなる程の私語がみられる場合」，「試験やレポートで不正行為があった場合」，「機材が動かない場合」，「担当教員の声が聞き取り難い場合」などの状況を提示し，TAとしてどう対処したらよいかについて全員でディスカッションをしました。

次年度のこの科目の分科会に関しては，「人文科学入門」以外のTAの参加をどう促すか，またそれらのTAも考慮に入れた分科会担当者の人選をいかに行なうかが課題となるでしょう。（小田 博志）

K 心理学実験

参加者数は4名でした。ティーチング・アシスタントマニュアルを輪読しながら，心理学実験におけるTAの心構えや実験中の補助として求められること，心理学実験におけるTAの役割，特に注意すべきこと等について質疑応答を交ぜながら説明を行いました。最後に，この実験授業でTAが直面するかも知れない幾つかの問題に対して，TAがどのように対応すべきかについて討論を行いました。（田山 忠行）

L 理系基礎科目

参加者数は26名でした。ミニレクチャー「グループ学習の基礎」（分科会C＜講義＞と合同）では講義におけるTAの役割及びグループ学習の基礎について受講し，続いて2つの小グループに分かれて理系基礎科目におけるTAの役割を討論し理解を深めました。小グループ学習では，「どのような講義・教員が良いのか，悪いのか」について，学部学生のときに受けた指導の体験を振り返るなどを交えてディスカッションしました。示唆に富んだ具体的な意見が多く発せられ，TAの仕事向上に有益だったと思われます。（高岡 秀夫）

M 自然科学実験

参加者は物理3名，化学9名，生物18名，地球惑星科学4名の計34名でした。まずN302室においてカテゴリー（物理，化学，生物，地惑）共通のプログラムを行いました。具体的には，自然科学実験の概要，TAとしての仕事内容と一般的な心構え，各実験共通の安全上の注意点などについて，スライドを用いた説明を行いました。ついで，各カテゴリーに分かれ，カテゴリー別の実験の詳細やシステムに関する説明，ならびに安全教育を行いました。（廣川 淳）

N アカデミック・サポート

この分科会は，アカデミック・サポートセンターが実施する学習サポートの担当TA（チューター）が対象です。はじめにアイスブレーキングとして，参加者の研究内容の説明を含めた自己紹介をしてもらいました。続いて，本TAの中心業務である授業外の質問対応に関して，具体的な注意点や心構えなどを確認しました。また，ケーススタディとして，学生から多く寄せられた質問内容を例に，学生主体の学習を支援するための方法や技術について，参加者全員で意見を出し合いながらアイディアを共有しました。最後に毎回の業務の流れを確認し，研修を終えました。（斉藤 準）

ベトナム・台湾の大学の教員の教育支援・学生支援

2012年3月7日～15日に，高等教育開発研究部門関係者4名で，ベトナム国立大学（VNU）ハノイ校と台湾の東呉大学，国立台湾大学（NTU）を訪問し，FD，教員の教育支援および学生支援について話をうかがってきました。

ベトナム大学

VNU ハノイ校（写真 1）では，VNU で教員に採用されるには，日本の小中高の教員のように教員免許が必要であるという話でした。そのためには 2 週間の研修が必要ですが，毎週末に VNU ハノイ校に通って 2 ヶ月で取ることも可能のようです。225 時間で 15 単位，9 科目が必修で，その内容は，①ベトナムと世界の高等教育の展望，②教育心理学，③ティーチングの理論と方法，④カリキュラムの実行，⑤認証評価，⑥高等教育における評価，⑦コンピュータテクノロジーの教育への利用，⑧教育現場での理論と方法の実践，⑨シラバスの書き方で，この研修は 1 クラス 30 ～ 50 人で行われるそうです。これが日本の教員向け FD に対応するようです。

学生支援については，学生は高校生のとき，アメリカの SAT のような国家試験 3 種類と，6 教科 30 点の卒業試験があり，VNU にはベトナムのエリート学生が入学してくるので，学生支援としては，学生寮の整備など生活面の支援が中心で，最近日本の多くの大学で行われている学習支援のようなものは無いようでした。

訪問の最後に，2000 人の学生が暮らす学生寮（写真 2）に案内され，日本語を勉強している女子学生の部屋を見せていただきました。一部屋に 2 段ベッドを使って 8 人ほどが住んでいました。私が学生の頃には一部屋 6 人の学生寮に住んでいたことを思い出しました。

台湾の大学

台湾ではまず，2011 年度に客員教員として来ていただいた何希慧先生の東呉大学を訪問しました（写真 3）。

台湾では，全国を 6 ブロックに分け，各ブロックの一大学に FD に関するセンターを置いています。台北市には 2 つのブロックがあり，東呉大学と NTU がおのおの中心大学となっています。各ブロックから訪問団を組織して，アメリカの西海岸の大学，次の年に東海岸の大学を訪問し，アメリカの CTL（Center for Teaching and Learning）の仕組みを取り入れています。

写真 1　ベトナム国立大学 (VNU) ハノイ校

写真 2　VNU ハノイ校の学生寮

東呉大学のセンターには，教員への教育支援のための設備，マイクロティーチング教室（マジックミラーを通して隣室から授業を観察できる）（写真４），学生が授業内容の相談にくる部屋などが整備されていて，明るい色で楽しくなるようなそのデザインで，センターの一人の教員が自分ですべてデザインしたそうです。センターの各部門には１室が割り当てられ，部門長と５人のスタッフが仕事をしていました。昨年訪問したソウル大学も同じでしたが，マンパワーが充実していました。

国立台湾大学でも，教学センターの構成，設備などの事情は，国家の方針でアメリカ式のものを導入したそうで，同じようでした。学生が自習できる学習ラウンジもおしゃれにできていました（写真５）。

教学センターの建物は，訪問したときには新しくできたばかりでした。日本の帝国大学時代の建物は北大の建物よりも立派でした（写真６）。

（西森 敏之）

写真３　東呉大学の正門

写真４　東呉大学のマイクロティーチング室

写真５　国立台湾大学の学習ラウンジ

写真６　国立台湾大学図書館

生涯学習　LIFELONG LEARNING

遠友学舎炉辺談話に約 300 人が参加

2011 年度の遠友学舎炉辺談話は，三上隆副学長（写真 1）をはじめ，研究科長や研究院長など 5 人の研究者を講師に迎え，今年 2 月から 3 月にかけて開催されました。ほぼ毎回，遠友学舎の談話ラウンジが満席になる約 60 人が集まり，今年度の参加者は延べ約 300 人に上りました。

遠友学舎炉辺談話は，遠友夜学校（1894 ～ 1944 年）を通じて多くの人々に学びの場を提供した新渡戸稲造博士らの志を受け継ぎ，本学の創基 125 年を機に 2001 年度に始まりました。2005 年度からは生涯学習計画研究部門が企画実施しています。今年でスタートから 11 年目を迎え，地域の方々や学生，本学の教職員がともに知識を深め，交流する場として親しまれています。

遠友学舎炉辺談話で講師を務めるのは，副学長や部局長をはじめ，本学を代表する研究者です。それぞれの専門分野の立場から，最先端の研究の話題や，本学における研究教育の取り組みについて話題提供します。

今年度は毎週木曜日，2 月 9 日から 3 月 15 日に，表 1 の 5 回の講座を開きました。各回とも 18 時半～ 20 時半に行われました。　（三上 直之）

写真 1　三上副学長の話を聞く参加者

表 1

回	日時	講師「演題」	参加者
1	2 月 9 日	玉木長良・医学研究科長「PET を使って体の中を探る」	43 人
2	2 月 16 日	馬場直志・工学研究院長「光工学と天文」	64 人
3	3 月 1 日	三上隆・副学長「トンネルを造る」	62 人
4	3 月 8 日	喜田宏・人獣共通感染症リサーチセンター「人獣共通感染症を正しく恐れよう」	62 人
5	3 月 15 日	杉山滋郎・CoSTEP 代表「科学技術と社会をつなぐコミュニケーション」	58 人

科学技術コミュニケーション　CoSTEP

CoSTEP 受講生が北大広報誌『リテラポプリ特別号』を制作

～北大と震災について考える～

CoSTEP では 2011 年度，北大広報誌『リテラポプリ』（季刊）45 号（'11 年 9 月発行），46 号（'11 年 11 月発行）の特集（各 11 ページ）と，47 号高校生向け特別号（'12 年 2 月発行）1 冊の企画，編集，制作を担当しました。受講生 17 人と教員が北大と震災についての記事作りに取り組みました。

北海道は，被災地とは海を隔てはいるが，震災は決して遠くのできごとではありません。読者対象である高校生に，震災を自分のこととしてとらえてもらい，復興を含め未来の社会のためになにをすべきか考えてもらいたいと考え，この 1 冊でなにを伝えるべきか。悩んで生み出したコンセプトは「新しい『いつも』を作ろう」でした。

被災地から海を隔てた北海道で，震災の被害をどこか遠いところのようにとらえていないか？　今も苦しい生活を送っている人がいることを，頭ではわかっていても親身になりきれない部分があるのではないか？　復興は，被災地と政治や行政が行うと思ってはいないか？　いや，それではいけない。地震・津波の被害だけではなく，それに伴って吹き出したさまざまな社会の問題や矛盾，将来の社会に対する責任。これらは決して被災地だけのものでも，行政や政治だけの仕事でもありません。自分にとって身近で切実な問題なのです。そのことを読者に伝えたいとの思いで，企画・編集・制作を行いました。そして，震災前の社会にただそのまま戻るのではなく，自分たちの手で，震災前よりももっと暮らしやすい日常を作っていこうじゃないかというメッセージを，「新しい『いつも』」という言葉に込めました。

その『リテラポプリ特別号』が完成しました。震災をきちんと振り返るためのデータ，地震・津波についての基本的な理解，原発事故を考えるための論説，北大に関わる人々が被災地とどう向き合ったのかをリアルに伝えるレポート，さらに復興を含め社会の問題を考え解決するために大学で学べることの紹介。それらを込めた渾身の 1 冊です。読者を高校生と設定はしていますが，大人の人たちにも十分読応えのあるものに仕上がっていると思います。

43000 部発行。B5 判　48 ページ。エルムの森をはじめとする学内，学外各所のほか，夏のオープンキャンパスでも配布。一人でも多くの人に手にとってもらい，震災について改めて深く考えてもらえればと思います。　（古田 ゆかり）

写真１　リテラポプリ　特別号

教育支援　EDUCATIONAL SUPPORT

2011年度第2学期 アカデミック・サポートセンター（ASC）活動報告

アカデミック・サポートセンター(ASC)の第2学期（10～3月）の活動を報告します（表1・2，第1学期については本誌No.88，p.22を参照）。

スタッフと院生チューターによる個別の学習サポートは，延べ1,062人が利用しました。利用者数は第1学期とほぼ同じで，前年同時期と比べて3.6倍になりました。スタッフによる進路相談は延べ135人が利用し，特に10月と2，3月の利用者が多くなりました。レポートの書き方をテーマにしたスタディ・スキルセミナーは，参加者数は延べ12人でしたが，セミナー資料はASC前の掲示コーナーに置いて約300部配布しました。

図1は2011年度のASC月別利用者数です。学習サポートの利用者数は定期試験前の時期に集中します。今学期は利用者が集中する時期にチューターを増員しました。次年度は第1学期から利用者集中時期にチューターを増員する予定です。

進路相談は4月に履修に関する相談が非常に多く，次年度も同じことが予想されますので，多かった相談についてQ&Aを作成し，ASCの掲示版やwebサイトへの掲載の準備を進めるとともに，ピア・サポート室など他機関との連携を強化して，新学期に備えています。また，スタディ・スキルセミナーは学生の利用しやすい時期や時間を工夫して開催する予定です。学生への周知等，今後とも教職員のみなさまのご協力をお願いいたします。

これまでのASCの活動をまとめた「アカデミック・サポートセンター活動報告書（2009～2011年度）」を発行しましたので，活動の詳細は報告書をご覧ください。内容は以下の通りです。

表1　第2学期 学習サポートの利用状況

	利用人数		利用時間(h)	1年生				2年生以上	学年不明
				総合入試		総合入試以外			
	H23年度	(H22年度)		文系	理系	文系	理系		
計	1062	(292)	628.4	4	667	28	208	50	105

表2　第2学期 進路相談の利用状況

	相談人数	相談時間(h)	総合入試		学部別	その他・不明
			文系	理系		
計	135	72.0	4	81	27	23

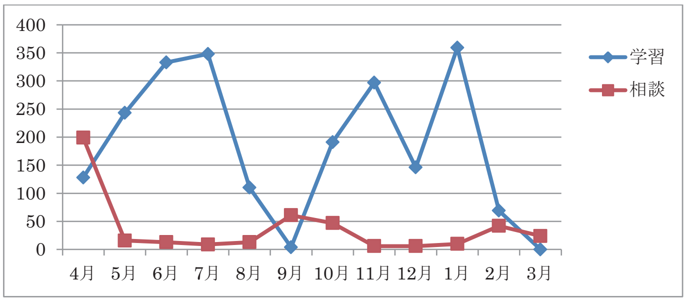


図1　2011年度月別ASC利用者数

1. アカデミック・センターについて
2. アカデミック・サポート推進室活動報告書
3. 進路・修学相談
4. アカデミック・マップ
5. 学習サポート
6. スタディ・スキルセミナー
7. 調査分析

この報告書ではASCの前身として2009年10月に設置されたアカデミック・サポート推進室とASCの2011年度までの活動をまとめています。宣伝ポスターや発表スライドなども掲載しています。活動報告書についてはASCまでお問い合わせください。（前田 展希）

日誌 EVENTS, *January-February*

1月

14日～15日
（試験） 大学入試センター試験
23日（会議） 平成23年度第2回生涯学習計画研究専門委員会公開講座実施部会
25日（会議） 平成23年度第5回IRシステムコンソーシアム設置準備委員会
26日（会議） 第8回教育改革室会議

2月

6日（会議） 入学者選抜委員会
7日（行事） AO入試（大学入試センター試験を課す）合格者発表
8日（行事） 学部移行ガイダンス，学部・学科等紹介
9日（談話） 平成23年度第1回遠友学舎炉辺談話
16日（談話） 平成23年度第2回遠友学舎炉辺談話
17日（会議） 平成23年度第3回生涯学習計画研究専門委員会
21日（会議） 第5回全学教育専門委員会
22日（会議） 第2回総合教育学生専門委員会
22日（会議） 平成23年度第2回高等教育開発研究部専門委員会
23日（会議） 第9回教育改革室会議
25日～26日
（試験） 一般入試（前期日程）
29日（会議） 第6回総合教育移行専門委員会
29日（会議） 第4回高等教育推進機構運営委員会
29日（会議） 第4回高等教育推進機構学務委員会

行事予定 SCHEDULE, *January-March*

	【日（曜日）】	【行事】
4月	2（月）～4（水）	新入生定期健康診断（理系）
	5（木）	新入生オリエンテーション及び総合教育部 ガイダンス（学部・学科等移行ガイダンス，学部ガイダンス）
	6（金）	入学式
	9（月）	履修調整・登録に関するガイダンス及び 教育情報システム（ELMS）利用に関するガイダンス 新入生定期健康診断（文系）
	10（火）	第1学期授業開始日
	10（火）～16（月）	抽選科目の申込期間（Web入力）
	18（水）	抽選科目の結果発表日及び追加申込日
	19（木）～25（水）	平成18～24年度入学者履修届Web入力
	19（木），20（金）	平成17年度以前入学者履修届受付
5月	21（月）	6講時授業実施開始
6月	7（木）	開学記念行事日（休講）
	7（木）～10（日）	大学祭[7(木)，8(金)は休講]
	13（水）～15（金）	履修登録した科目の取消し受付（Web）
	16（土）	TOEFL-ITP試験（英語II）
	28（木）	6講時授業実施終了

ニュースレター　2012，No.90　目次

＜巻頭言＞保健センターの現在（いま）
武蔵 学 1

大学院教育部を新設.. 3

北海道大学教育総長賞を新設 4

大学教育学会第 34 回大会を開催 5

プロフェッショナルディベロップメント
─教員・TA 研修の国際比較（北海道大学出版会）を刊行
.... 6

カリフォルニア大学バークリー校の講師による
「大学院生のための大学教員養成 (PFF) 講座」評価報告書を刊行... 7

２年目に入った新しい入試制度と変わる志願者・合格者の動向 8

「一年生調査 2010 年」北海道大学を中心とした比較分析
.... 9

移行ガイダンス，学部・学科等紹介（2 月開催）... 10
学務委員会報告 11

2012（平成 24）年度　全学教育部・総合教育部行事予定表　... 14

平成 23/22 年度（第 1 学期 / 第 2 学期）全学教育科目履修者数対比表 15

平成 23 年度全学教育における各部局の授業担当状況
....（折り込み）

４研究部門合同研究報告会
西森敏之特任教授の退職記念講演......................... 17

英語による授業を担当する教員のための研修 18

FD 研修の内容をまとめた映像資料 19

中堅教員のための FD 研修会～第１回 北海道大学教育改善マネジメント・ワークショップ～.................. 20

全学教育 TA 研修会─ 173 名が修了─ 22

ベトナム・台湾の大学の教員の教育支援・学生支援
.... 26

遠友学舎炉辺談話に約 300 人が参加.................... 28

CoSTEP 受講生が北大広報誌『リテラポプリ特別号』を制作～北大と震災について考える～ 29

2011 年度第 2 学期 アカデミック・サポートセンター（ASC）活動報告 30

日誌・行事予定 31

目次・編集後記 32

編集後記

5 月 26，27 日に本学で大学教育学会第 34 回大会が開催されます。全国から 400 名を超える参加者が集う予定の本大会は「転換期の大学教育」を統一テーマとして，シンポジウム等を企画いたしました。この実行委員会には歴代の高等教育開発研究部長にも加わっていただき，本学の叡智を集めた大会にしたいと考えています。特別企画としてノーベル賞受賞者の鈴木章名誉教授の化学教育に関する基調講演と，東京大学で検討されている秋入学に関する緊急シンポジウムが多くの方の興味を引くものと思います。

世界的に見ても，今日ほど大学に変革が期待される時代はありません。大きく変わっている社会体制，産業構造。日本はそれに加えて，震災の痛手と原発の見直しを迫られています。大学も，それに応じて変化しなければいけません。その変化の方向が，本大会で見えてくれれば幸いです。（歳）

ニュースレター（旧「センターニュース」）
（北海道大学高等教育推進機構広報誌）
通算 **第 90 号**

発行日：　2012 年 4 月 10 日
発行元：　北海道大学高等教育推進機構
（旧高等教育機能開発総合センター）
〒 060-0817 札幌市北区北 17 条西 8 丁目
電話（011）706-7520・FAX（011）706-7854
編集委員：　西森敏之・◎細川敏幸・山田邦雅
木村純・亀野淳・三上直之・瀧澤一騎
山岸みどり・鈴木誠・池田文人
ご意見，お問い合わせは◎印の編集委員まで
電話：(011)706-7514; FAX(011)706-7521
インターネットホームページ：
http://educate.academic.hokudai.ac.jp/center/index.html